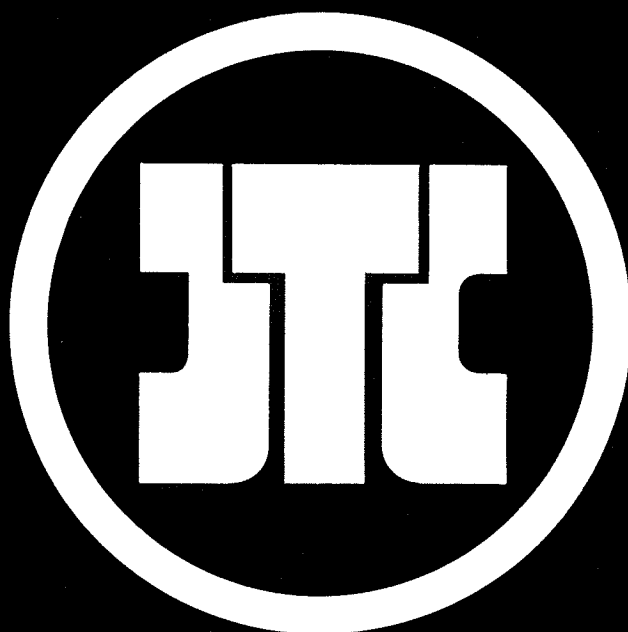


# しろあり

創立20年記念特集号

SHIROARI

JAPAN TERMITE CONTROL ASSOCIATION



OCTOBER 1978

社団法人 日本しろあり対策協会

No.

35

創立20年記念特集号

目次

<巻頭言>.....救仁郷 斉…(1)

<創立20年記念懸賞論文>

不況下のしろあり防除処理業界(業界のあり方についての提言)…前田保永…(2)

シロアリ業界の直面する諸問題を考える.....尾崎精一…(5)

<創立20年記念会員応募原稿>

白蟻防除施工賠償責任保険について.....森田次男…(10)

しろあり防除普及への提言.....船山一郎…(12)

しろあり問題についての提言.....菅原陸郎…(14)

茶碗一杯のシロアリ.....宮田光男…(16)

しろあり防除施工見聞記.....中林 取…(18)

ヤマトシロアリの群飛と気象.....安達洋二…(19)

田無市におけるシロアリの被害について.....石崎 裕…(21)

本州日本海沿岸のイエシロアリ分布調査.....森 八郎・児玉 勝・山根 坦…(25)

<座談会>しろあり防除の今昔(出席者)

米本安秀, 久保田博, 桑野田郎, 亀崎初蔵, 波多野俊夫, 前田保永,  
森脇熙史, 中島 泉, 小嶺幸一; 総司会 芝本武夫, 司会 森 八郎;  
オブザーバー 神山幸弘; 事務局 香坂正二, 三村二三男.....(27)

<協会のインホームেশョン>

1978年発行 しろあり No. 30~35 総目次 .....(46)

しろあり防除薬剤認定商品名・防蟻材料商品名一覧表.....(48)

日本しろあり対策協会機関誌	しろあり 第35号	編集委員
昭和53年10月31日発行		森 八郎(委員長)
発行者 森 八郎		森本 博・山野 勝次
発行所 社団法人 日本しろあり対策協会 東京都新宿区新宿2 丁目5-10日伸ビル(5階) 電話(341)7825番		河村 肇・元木 三喜男
		神山 幸弘・香坂 正二
印刷所 株式会社 白橋印刷所 東京都中央区八丁堀4-4-1		豊田 浩

---

# SHIROARI

---

(Termite)

No. 35, October 1978

Commemoration Issue of the 20th Anniversary of J. T. C. A.

Published by **Japan Termite Control Association** (J. T. C. A.)

5F, Nisshin-Building, Shinjuku 2-chōme 5-10, Shinjuku-ku Tokyo, Japan

---

## Contents

---

- [Foreword] ..... HITOSHI KUNIGO... (1)
- [Elected Prize Essays of the 20th Anniversary]
- On the Situation of Termite Control Enterprise Associations  
under the Economical Inactive Conditions.....YASUNAGA MAEDA... (2)
- Considering about Various Problems with which Termite Control  
Enterprise Associations are Confronted .....SEIICHI OZAKI... (5)
- [Applied Manuscripts of the 20th Anniversary from Members]
- Compensation Liability Insurance on Termite Control  
Works.....TSUGUO MORITA... (10)
- Proposal as to the Spread of Termite Control.....ICHIRO FUNAYAMA... (12)
- Proposal about the Termite Problems.....RIKUO SUGAWARA... (14)
- A Teacupful of Termites.....MITSUO MIYATA... (16)
- A Note on Observations of Termite Control Works  
.....OSAMU NAKABAYASHI... (18)
- Swarming of Termites and Climates.....YOJI ADACHI... (19)
- On the Termite Damage in Tanashi City.....HIROSHI ISHIZAKI... (21)
- An Investigation on the Distribution of *Coptotermes formosanus*  
SHIRAKI in the Main Island on the Coast of the Japan Sea  
HACHIRO MORI, MASARU KODAMA and HIROSHI YAMANE..... (25)
- [Symposium on the Contrast Between the  
Past and Present of the Termite Control in Japan]
- Persons Present : YASUhide YONEMOTO, HIROSHI KUBOTA, TARO  
KUWANO, HATSUZO KAMEZAKI, TOSHIO HATANŌ,  
YASUNAGA MAEDA, HIROSHI MORIWAKI, IZUMI  
NAKAJIMA, KOICHI KOMINE ; (CHAIRMEN)  
TAKEO SHIBAMOTO, HACHIRO MORI ; (OBSERVER)  
YUKIHIRO KAMIYAMA, SHOJI KOSAKA, FUMIO  
MIMURA. .... (27)
- [Information from the Association] ..... (46)

# 巻 頭 言



救 仁 郷 斉

社団法人日本しろあり対策協会が、前身である全日本しろあり対策協議会として発足してから、本年創立20年を迎えられましたことは慶賀の至りであり、ここに一言お祝詞を申し述べたいと存じます。

日本しろあり対策協会は創立以来建築物の保存維持に尽瘁され、一般社会ならびにしろあり防除士などの専門業者に対しても、新知見・新事実などを加えての啓蒙指導を終始一貫続けられて今日に至りました。その成果は着々と実を結び、20年の歴史を築いた協会がいよいよ隆盛を示しているのも、ひとえに協会役員の滅私のご努力と会員諸賢のご後援によるものと信じて疑いません。創立20年の祝賀すべき秋にあたり、祝詞とともに協会関係者の方々に感謝の微意を捧げます。

古来わが国においては主として木造建築が発達し、世界に誇る七世紀建立の法隆寺をはじめとして千数百年前の木造建築物が、国宝または重要文化財としてわが国の遺産となり今日に残されております。このような著名なものでなくても木造の古い建築物は多く残っており、私どもの祖先がそれなりの保存技術を考案して今日までも残るような立派な木造建築物を製作し、それがわが国木造建築のよい伝統となったものと考えられます。一方最近の建築においては都市防災の立場から建設省は不燃化を推進して参りましたが、一般住宅の場合はやはり木造が主流であり、新規建設の場合でも木造は全数の半ばを超えているのが現状であります。また鉄筋コンクリート造・コンクリートブロック造または鉄骨造などにしても、内部に木材その他を使用することは言うまでもありません。

このように建築物には多かれ少なかれ木材が使用されておりますので、木材の最大の欠点といわれている腐朽やシロアリの被害に対する考慮が充分になされなければなりません。往時はそのような被害に対して抵抗力のある材を選んだり、建築のありかた自体に創意工夫を加えたりしたように考えられますが、近年は木材の腐朽対策に重点がおかれ、かつ、最近では腐朽とともにシロアリの防除が大きな問題となって参りました。日本しろあり対策協会が当初全日本しろあり対策協議会として誕生し、被害調査の進展と相俟って中央組織として定着し、20年の歴史を築いたことも決して偶然ではありません。シロアリの恐るべき生命力も、木材内部に猛威を示しながら表面に被害を示すことの少ない習性から、人々の注意を惹かなかったと思われませんが、科学的研究の進展によりその生態が明らかにされるにつれ、漸次シロアリの恐ろしさが一般に認識されてきていると思われまます。

木材に甚大な被害を与え、大群をなして生息するこの恐るべき昆虫に対し、日本しろあり対策協会は20年の長きに亘り防除対策を講じてこられました。シロアリの防除には専門的知識が必要であることから、しろあり防除士の検定試験を実施して防除士の認定を行い、シロアリその他の虫による被害を防ぐために木造建築物防除処理標準仕様書を作成して施工の基準を示し、またしろあり防除ダイジェストを発刊して、防除の指針とし、防除薬剤を認定して有効薬剤の普及に貢献しています。以上述べましたように、シロアリに関する諸業績の成果は日本しろあり対策協会のお力に負うところが極めて大であると考えます。

日本しろあり対策協会にも、しろあり防除士の方々にも、今後ともシロアリ被害の恐ろしさについての啓蒙とその防除の普及に関する倍旧のご努力をお願いし、日本しろあり対策協会の一層の発展を祈ってやみません。

(建設省住宅局長)

## 不況下のしろあり防除処理業界 業界のあり方についての提言

前 田 保 永

### はじめに

景気の渋滞が慢性化し、不況の影響がしろあり防除処理業界にも種々の形で影を落している。

例えば、受注の鈍化もその一つで、去年の後半、一部の地域で鈍化の崩しが現われ、今年に入るとその傾向は急速に各地に波及しはじめている。

過去10数年、経済の高度伸長に付随して順調に発展してきた業界も、景気の冷却に伴って、漸くきびしい試練の季節を迎えたといえる。

受注の鈍化は、官公庁はじめ地方自治体の予算圧縮、民間企業の業績不振、住宅ブームの退潮等、種々の要因が重複した経済環境の悪化が原因になっているが、経済環境の悪化は、今後更に深刻化することが予測され、経営基盤の脆弱な零細業者の多い業界にとって、これからの対処が浮沈の鍵を握ることになり、適切な対応を誤ると、不況の重圧の中に分裂・埋没してしまう危険性も孕んでいる。

### 過当競争を抑制せよ

受注の鈍化は、必然的に過当競争を誘発し、競争能力の微弱な零細業者の脱落や、種々のトラブルの原因になることが多い。

また、極端な過当競争は、単価基準を崩壊し、対外的に業界の信用を失墜する結果を招き易い。

過去、経済の諸分野で、過当競争が原因で、業界が混乱分裂した事例は数多く残されているが、しろあり防除処理業界の場合、薬品メーカーの防除部門への進出が個人業界や零細企業の経営を圧迫して、競争意識を刺戟している事実は否定できない。

最近しろあり防除処理業界の薬品メーカーによる系列化は目ざましく、殆どの業者が何れかのメーカーの系列に包括されているのが実情である。

この状態が進行すると、受注市場の独占等の弊害も避け難く、市場から締め出された弱小業者が、単価を無視した出血施工に走り、業界の信用を損う事態も起こり易い。

また業者相互の信頼関係に亀裂を生じ、業界を分裂離反に導く危険性も含まれている。不況の圧力が更に加重することが予測されるきびしい経済環境の中で共存していくためには、薬品メーカーの自重、業者各自の良識ある自覚が切望される。

### しろあり予防法の完全実施を実現せよ

ここ数年、しろあり予防工事が受注件数の中に占める割合が逐年増加し、一部の地域では、駆除工事件数を凌駕していることが確認されている。

この現象は、しろあり被害の恐ろしさが漸く一般に浸透し、予防対策の重要さが理解されはじめたことを示すものである。

最近医学の分野でも、予防医学が急速に進歩し、目ざましい業績を挙げている。また、公害等の環境衛生の場でも、公害発生源に対する徹底した規制と予防施策が次第にその効果を表わしはじめている。

病災害に対する先守防衛が、社会常識化している風潮の中で、業界の多年の懸案である新築木造建物に対するしろあり予防措置法の完全実施が、業界の不断の努力にもかかわらず実現の運びに至らないのは残念である。

しろあり予防措置法の完全実施が実現すれば、現在の受注量を倍増させることが容易に予測さ



れ、業界発展のカンフル剤になるばかりか、業界のウイークポイントになっているしろあり冬眠期の季節的休閑期解消の切札にもなることになり、一石二鳥の効果が期待できる。

アメリカのある州では、新築木造建物のしろあり予防義務が、建築法で条例化されていると聞いている。

日本の場合、完全実施の早期実現は、種々の状況から困難としても、しろあり被害多発地域の県市自治体での条例化は業界の努力次第で実現可能である。

米価決定時に発揮する農業団体のあの猛烈なパワーを業界も見習うべきである。

### 多角経営を指向せよ

現在協会加入のしろあり防除処理業者の中で兼業々者は約半数を超えている。

未加入業者を加えると60%近くが兼業々者である。

兼業の業種は、環境衛生部門が多く、中には、稼働期だけしろあり防除に早替りする業者も含まれている。

アメリカ本土、ハワイでは兼業率は90%に達している。

日本でのしろあり防除処理専一業者の経営規模は、従業員30人がその限界といわれている。経営規模の伸長を阻害する最大の障害は、しろありが冬眠に入る約5ヶ月間の季節的な休閑期にある。

過去、休閑期の解決に、各業者は年々苦慮しながら、適切な打開策のないまま今日に至っている。

しろあり防除処理が生命のある昆虫を仕事の対象にしている限り、昆虫の習性に影響されるのは不可避としても、冬眠期間の技術員の確保、それに伴う人件費諸経費の負担が経営を圧迫し、規模拡大を阻んでいるのが大多数の専一業者のいつわりない実情である。

不況が深刻化すると休閑期の増長も当然予想され、休閑期の打開が専一業者の浮沈を左右することになる。

休閑期の打開には、多角経営も一つの方法である。

現在兼業々者の殆どは環境衛生部門に進出している。本業と関連があり、転換も素早く行えるのがその理由である。

然しその部門も最近では過当競争が熾烈で、新規加入者に門は狭くきびしい。

この際発想を転換して、新部門に兼業を求める勇氣と決断も時には経営者に必要である。

### 防除士の社会的地位向上に努めよ

現在協会が認定した防除士資格取得者は2,300名に達し、防除士資格検定試験も年を追って受験者も増加して難関になり、権威を高めている。

然し業界外には防除士資格の意味が殆ど理解されていないのが実情で、防除工事の現場で防除士資格の有無が問題になった例は皆無である。

業界の発展には、防除士の社会的地位の向上も不可欠の要素で、防除士資格が一般に認識された場合、現在実施している防除工事の事後保証など不要となることも考えられる。

例えば、建築業界における一級建築士の権威については、既に一般に周知の事実である。しろあり防除処理業界も一級建築士のもつ社会的信用を最終目標に防除士の地位向上に努力を傾注すべきである。

防除士の地位向上策として、協会が行っている防除士資格検定試験を国家試験に移行し、現在の資格取得者をすべて白紙に戻し、改めて国家試験による認定を実施するのも一つの方法である。

然しそのためには、建設業法に規定されている指定業種(28業種)にしろあり防除処理業が加えられるよう努力することが先ず必要である。

勿論協会のPRによって関係方面への理解を広めるのもまた別の方法であるが、現在の法制度の下では、国家試験以外の試験方法でその権威を一般に認識されるのは困難である。

### 防除技術の後進性を打破せよ

防除士の社会的地位の向上に関連して、しろあり防除技術の後進性の打破も業界発展の鍵になる。

現在は機械文明の時代である。機械の進歩開発が技術の革新を促している事実を建築現場などで

よく目にする。機械が主役の時代である。

しろあり防除処理の場合、主役の位置は依然として人が占めている。

経験が尊重され、特殊な技術が巾を利かせているのも技術後進社会に共通する現象である。

アメリカでは機械が全面的に移入され、合理的な防除方法が一般化している。床下を這って潜っての防除方法の是非はとにかくとして、施工仕様基準の再検討や、機械器具の改良移入等、時代に順応した防除方法の開発について、業界全般が関心を高める必要がある。

例えば、リモコン操作による床下での土壌処理剤の撒布、営巣個所を正確に把握する探知器の開発等、可能性に挑戦する若い防除士の出現を期待する。

防除技術の進歩には、防除薬剤の開発も重要な役割を占めている。特に80年代以後、しろあり防除処理の主軸としてくん蒸処理の実用化が待望されているだけに、くん蒸処理剤の早期開発が防除技術の改革を実現する課題といえる。

くん蒸処理は、現在文化財の防除等に利用されているが、一般住宅の防除処理への実用化にはまだ数多くの研究課題が残されている。中でも、日本の住宅環境に適合した毒性の稀薄なくん蒸剤の開発が急務となっている。

## おわりに

業者が集まると、不景気の話になり倒産した会社が話題になる。きびしい世相である。不況の解決は、根本的には経済界の復調に期待する以外に方法はないが、熾烈な競争社会で生き残るためには、自衛能力を蓄えることも重要である。

かつて業界の先人たちは、殻の中に深くこもって嵐の通り過ぎるのを待ったが、企業化された現在では先人の智慧を真似るわけにはいかない。戦線の縮少は脱落に連なる危険をはらんでいるからである。

協会が設立されて20年。20年の年月の経過は次のステップへの過渡期ともいえる。

歴史が浅いということは、社会の動向に対処する経験に乏しい代り、数多くの可能性も残されている。

80年代以後の業界の課題は、未知の可能性を探ることにある。

防除技術の改革に、防除薬品の開発に、未踏の流域はまだ多く残されている。

この未知の分野が開発されたとき、業界の展望は大きく広がることを確信する。

(※前田白蟻研究所代表取締役)

## シロアリ業界の 直面する諸問題を考える

尾 崎 精 一

今、シロアリ業界が直面し、解決しなければならない問題が多い。業界の体質から生じる問題として施工価格の問題、施工内容の問題、悪徳業者発生の問題、日本しろあり対策協会加入業者と未加入業者の問題、そして行政に関係する問題として防除業者の身分確立の問題、政令改正によるシロアリ対策強化の問題、その他防除薬剤使用に係る安全性確保の問題、消費者啓蒙の問題、などと思いつくままに一つ一つ数え上げていくと、それらは互いに繋がり合って大きな問題の塊となり、それを解きほぐすことの難しさを思わずにはられないのである。

資本主義経済社会では、起こるべくして起こる需要と供給の不均衡がこれら問題の原因であると言ってしまう、まずそれに間違いない。それなら、つい数年前まではそれ程話題にもならなかったこれらの問題が、いつ頃からどのような形でこのシロアリ業界に芽を出し、どのように生長してきたのであろうか？一つ一つの問題を考える前に、その芽を探つて過去に遡るのも無駄ではないと考えるのである。

### 業界の構造変化

シロアリ対策といえば、常識的に殆ど駆除施工を指した時代には、これらの問題が起こり得る根拠もなかった。

「戦前には、被害家屋の駆除に、2日ばかりで、その家に泊めて貰いながら出掛けたものだ」  
と言う話を、九州の古い業者から懐かしさをこめて聞いたことがある。

このような素朴な工事を過去のものとして、こ

の業界に最初の革新をもたらしたのが、戦後輸入され、開発された塩素系防除薬剤である。これらの薬剤によって、より合理的と考えられる施工が可能になったのは事実である。防除技術、作業性、効果の確実性など、その後の防除の実際面を見れば頷けることである。

昭和30年前後のこの時期に、薬剤の革新による業界の構造変化の芽生えを見るのである。

技術革新には飛躍的な発展が約束される反面、いつかは必ず、どこかに歪が生じるのは歴史の常である。もし、新しい防除薬剤として塩素系薬剤が出現せず、現在もなお砒素系薬剤がその唯一のものであるとするなら、今日の業界の持つ問題も、恐らく今とは質の異なったものになっていたであろうと考えるのである。

一方、戦後の復興計画の第一として、行政的に強く押し進められてきた建築振興策は、住宅産業の分野に於いても新しい工法住宅としてプレハブ工法住宅を生み、48年には建設大臣工業化住宅性能認定制度が発足して、翌49年にはこの制度に基づくプレハブ第一次認定住宅が発表されたのである。この認定制度の発足は、その後のシロアリ市場に予防工事を画期的に推進するきっかけをもたらした、業界もそれに対応する体質改善をせまられることになった点で、大変に意義深く、これをもって業界の構造変化第二期と考えるのである。

工業化住宅性能認定制度の意義は、その規定の第一条に集約して読むことができる。「この規定は、工業化住宅の性能について、建設大臣が認定を行なうことにより、住宅購入者の住宅の選定に指標を与え、もって住宅購入者の利益の推進を図ることを目的とする」とするこの条項は、消費者



保護の精神を強く説いているのである。そこで、プレハブ住宅メーカーとしては、適正に充実した建物を購入者に提供するために万全の対策をその建てる住宅に行うことになり、その一つとして防蟻対策も積極的に取り上げられることになったのである。

勿論、建築基準法施行令には「必要に応じてシロアリその他の虫による害を防ぐための措置を講じなければならない」とあって、特にプレハブ住宅のみが認定制度によってその必要をいわれているのではない。消費者保護の側に立って良い建物を提供するのは、在来工法住宅でも同様である。

現実には、49年の工業化住宅認定制度の発足を契機として、それ以降、一般の新築建物に対する予防施工の必要性は理解される気運にあり、予防施工の実施数も年毎に増加しつつある。

### 業界の体質による問題

53年現在の業界は、筆者が構造変化の第二期とする49年頃には全く予想もしなかったほど多くの問題を抱える情勢にある。そして、これら諸問題のうち、特に業界の内側に体質的に生じてきたと考えられる問題の遠因は、30年前後の薬剤革新と、49年の市場拡大への対応という全く異質の二つの構造変化を大きな前提としているように思うのである。

この2～3年来、いくたびか新聞紙上に報導された所謂悪徳シロアリ業者のインチキ商法の問題は、多くの真面目な業者にとって、全く残念で迷惑な出来事であった。その都度、日本しろあり対策協会を中心とする業界としては、謙虚に反省し、いろいろの手段によって今後再びこのような不祥事を起こさない決意を明らかにしてきた。決意の表明は断固として実現しなければならない。

悪徳業者について、社会道徳的に結論だけいえば、彼等の“商道徳欠除”ということになる。しかし、彼等を抹殺することで、業界の不信は直ちに払拭されるものではない。悪徳業者の発生は、現在の業界が体質的に持ついくつかの問題点がたまたま瘍となって吹き出したものであると考えるからである。この瘍を作った原因は何であろうか？そのいくつかの原因は、悪徳とまではいかなく

ても、善良なる施主を何時欺くか分からない危険性を孕んでいるのではないだろうか？。

ここに、通称“シロアリ保険”に関連して、最近筆者の身近かに起きた事件を一例として挙げ、いくつかの角度から業界の内側の問題を考えてみようと思うのである。これは、工事依頼者である某防除業者に対して、

「万一、事故が起これば保険が補填してくれるのだから工事の手抜き（例えば薬剤の使用量を減らしたり、施工範囲を完全に行わない）をして、それだけ値段を安くしなさい」と持ちかけて、業者がこれに迎合したケースである。

“シロアリ保険”について若干の説明を加えると、この制度は、業者の行った施工の保証の裏付けを保険で行うもので、消費者保護の精神にかなって、誠に有益であり、今後のシロアリ業界が発展するために欠くことのできない制度である。それ故に、今や一般的になったこの“シロアリ保険”の運用に、業者は慎重さを欠いてはいけないのである。

この事件が起きた直接の原因は、業者間の過当競争と、それに勝つためのダンピングである。更にこの場合は、シロアリ防除に対する依頼者の認識不足が絡んでややこしいが、これに対して業者は、適切な施工内容に対する適正価格の理解をしてくれるための努力を果さなければならない。業者間の競争は、その上で堂々と、技術をもって行うべきであり、適正価格を割っての減茶苦茶な料金は、いずれは業者自身を苦しめ、結局は、手抜き工事として施工依頼者が迷惑を受けることになる。因に筆者が聞いた某工務店の指定価格は1㎡当たり300円であり、この価格で行う予防施工の質の低さは言を俟たない。

さきに、業界の構造変化第一期の要因として挙げた薬剤革新は、ややもすると防除作業に欠かせない経験の重要性を忘れ、一見、作業を容易にさせたと錯覚する者があるのは残念である。経験と技術を大切にしない者は、恐れずに水準の低い仕事をすることも事実である。この例に於いて、1㎡当たり300円での施工を引き受けようとした業者は、経験半年の俄業者であったと聞く。

この“シロアリ保険”事件の事実を知って、最も深く考えなければならぬのが業者間の過当競争をもたらしたシロアリ市場に於ける需給の不均衡である。筆者が、業界の構造変化第二期の初まりとして挙げた49年を境として、予防市場、駆除市場とも急速な拡大を遂げたのは事実である。駆除市場の増大の大きな理由の一つは、建築物の密閉構造化と、暖房設備の充実にあると考えられる。密閉構造化は壁体内に湿度を、暖房設備は冬の暖かさをシロアリに提供することになったからである。一方、同じ頃、突如として世界中を吹き荒れた石油危機旋風を境に、我が国の経済状態は不況に陥り、増えつつあるシロアリ工事の需要が目掛けて、俄に、所謂素人の 俄業者が各地に開店し、未熟な技術で施工内容の低い工事を廉価に行い、需給のバランスを崩して業界を混乱の泥沼に引きずり込んで了った。初めの頃は、特に都市部に於いて激しかったこの傾向は、次第にその輪を地方に拡げて移りつつあるように見受けられる。この俄業者は、日本しろあり対策協会加入業者以外の真面目な業者にとっても、甚だ迷惑な存在である。ある地区に於いては、対策協会員5名に対し、俄にシロアリ防除の看板を掲げた兼業者、又は俄専門業者が9名はいるそうである。兼業者の本職は理髪業、豊業とさまざまで、容易に手に入る薬剤を用いての未熟な施工が、“依頼者に対する不利益にならぬだろうか？”又、“防除薬剤の不手際な不始末が環境汚染の問題を引き起こしはせぬか？”と気にかかることである。秩序を正すべく、この面での行政指導のまたれる所以である。

### 防除薬剤に係る安全性確保の問題

シロアリ業界が、健全に業務を遂行するために忘れることのできないのが、防除薬剤の取扱いに係る安全性確保の問題である。

近年、公害対策、環境保護、消費者保護が叫ばれ、それが社会的命題としてクローズアップされるにつれて、企業が社会の各分野に供給する商品の安全性確保が強く要求されるようになった。シロアリ業界を振り返って、この安全性確保の面から、防除薬剤、防除作業などを考えるとき、その取扱いについて、業界全体に対して一層の自覚

と、注意の喚起を痛感せずにはいられないのである。

現今、業者が一般に広く使用する薬剤は、毒物、劇物の分類から言えば普通物が多い。普通物ではあっても、所謂殺虫剤には違いないのである。就中、一部には依然として毒物、劇物も販売され、使用されているのが現状である。安易な取扱いはすべきでない。製造業者、販売業者、更にそれを使用する防除業者など、シロアリ防除薬剤に係りのある者は全て、最大の責任を以ってこれに接しなければならないと思うのである。残念ながら実際面に於いて、慨嘆するような場面に出会すことも少なくない。一部製造業者間の自主管理によって業務用としてのみの販売を申し合わせた商品が、業務用なる表示の下に、一般消費者を対象に売られているのも2~3の例に留まらない。防除業者の薬剤格納も完全でないものが多い。防除作業中の施工者自らの安全対策や、作業後の薬剤及び器材の後始末にも、更に注意しなければならない点の多いのを強く感じるのである。

### 行政に関する問題

錯綜する当面の諸問題にけじめをつけて混乱を正す為には、業界に対する行政指導が是非必要な時にきていると考えるのである。

シロアリ業界を構成する業者は、日本しろあり対策協会加入業者と協会未加入業者に分けられる。協会未加入業者には、経験の長い、立派な仕事をを行う業者と、経験のない俄業者が含まれる。協会加入業者は、一定の経験を必要条件とする協会の行う検定試験に合格した防除士資格を有する者である。

最近、経験の短い俄業者を含めた業者のグループが、県認可の“組合”を組織しようとする話をいくつかの県で耳にする。協会加入業者、又は協会に加入しなくても経験の長い業者が集まってこの認可を受けるのなら、一応技術に関しては間違いないとするが、問題は前者の俄業者グループが認可を得て“組合”としての便益を受ける場合である。一方で“組合”本来の趣旨である中小企業育成の恩恵を合法的に受けながら、一方ではシロアリ防除経験の未熟から、心ならずも十分な防



除作業を全うし得ないとなれば、これは矢張り問題であろう。

シロアリ防除工事に際しては、一つ一つの現場に、経験に裏打ちされた判断を要求されるのが常であり、シロアリの生態と習性、薬剤の効果と機能を知らずに行う処理は、効果が期待されないばかりでなく、時には危険をも伴うことになる。イエシロアリの駆除工事に、その習性を知らずにヤマトシロアリに対する駆除方法を用いて失敗した話、薬剤の取り扱いに無知な素人が、断水時に薬剤容器の中に放置した蛇口直結のホースから防除薬剤が水道本管に逆流した話など、筆者の知る例である。

それまで、全くシロアリ防除を知らない者がシロアリ業者として突如、容易に就業できる点に不審をもつのは筆者のみであろうか？シロアリ防除の仕事は、専門的知識を必要とする職業として、その身分、又は資格が行政的に管理されることが望まれるのである。その方法については埒外であり、関係当局に壟むのみである。

業界は、予て久しく、関係行政機関に対して、防除処理に関する具体的な規制実現を期待してきた。建築基準法では建物の保存対策として、特に構造耐力上の主要な部材についての腐朽対策については定めているものの、シロアリに対する配慮は全く見当たらないのである。基準法施行令では、「構造耐力上主要な部分である柱、筋違い、および土台のうち、地面から1m以内の部分には有効な防腐措置を講ずるとともに、必要に応じて、シロアリその他の虫による害を防ぐための措置を講じなければならない」と規定し、ここにはじめてシロアリ対策が一応考えられているが、まだその措置を講ずる部位が充分であるとは言えない。シロアリ対策として考えるとき、これらの法や政令でいう構造耐力上主要な部分の他、床束・大引・根太・根太掛・間柱・下見板などは当然シロアリ被害を受け易い部材として考えなければならないところである。床下から束や土台を伝って、食害しながら侵入してくるシロアリの生態を知って対策を立てなければ意味がないのである。

昨年来、協会に於いて「モデル建築条例」案の検討を重ね、近く最終案ができ上がると聞く。各

県当局の理解を得て、地域性のあるシロアリ被害に対して、その土地にふさわしい県条例の一日も早い制定を広い見地から望むや切である。

## 業者の自覚と

### (社)日本しろあり対策協会への期待

混迷する業界で、真面目な業者ほど恐れることの一つに、消費者のシロアリ業者を見る目がある。心ない不良業者一人の行為は、業者全体に対する評価となって敏感に反応してくるからである。悪徳業者逮捕事件のあった昨年は、羽アリが飛んでも駆除を見合わせるほど、業者に対して消費者はその不信をあらわに示した。お互いに不幸なことである。

消費者に対して、シロアリに関する不確実な情報を与える者がある。その情報媒体が、名の通ったものであればあるほど、人の目に触れる機会は多く、その影響も少なくない。次の文章は、某有名住宅雑誌の本年3月号に掲載されたものの一部である。

「つぎに費用の件ですが、シロアリ駆除に使用される毒薬等の原価は、1軒分ではわずかに1,000円程度のものであります。それに人件費、機械化、その他の費用を含めても1~2万円程度にしかならないと思うのですが、実際には1㎡当り1,000円から1万円と幅広く、あなたの家屋のように20坪余りの建物の場合には6万円から70万円と業者によってかなりの開きがあるようです。」(原文のまま)

まず薬代が1,000円程度と聞き、更にその1,000円の薬剤を使っただけの工事費が最高70万円にもなる場合があると聞けば、多くの読者はシロアリ業者に対する不信を感じるに違いないと心が痛むのである。この他にも、シロアリに関する雑誌の解説記事の一部には、正しくない処理対策を述べたものや、いたずらに恐怖心を与えるようなものが少なからず目に留まるのは誠に残念である。

これまでの、協会の折に触れての啓蒙活動が、徐々にシロアリに関する認識を消費者に高めつつあるのは事実であるが、全般的にその理解度はまだまだ低いと言わざるを得ない。

シロアリ防除工事、殊に予防工事は、本来工事

が終わってしまえば目に見えるものではない。その施工の良し悪しは、工事を見ていない限りなかなか直ぐには人目に評価し難いものである。施主と施工者であるシロアリ業者の間に、まず信頼感がなければ工事の遂行は不可能である。同時に業界の繁栄は考えられないのである。解決しなければならぬ諸問題を抱えるシロアリ業界が、その解決の糸口としてまっさきに為すべきことは、不

良業者発生によって失われた消費者からの信頼を回復することである。業者はそれを、襟を正し、企業者意識をもって堂々とやり遂げなければならない。

今こそ、国民のシロアリに関する理解を深める啓蒙を、(株)日本しろあり対策協会に強く期待するのである。

(榎見玉商会代表取締役)



## シロアリ防除施工賠償責任保険について

森 田 次 男

日本しろあり対策協会では、企業者登録制度の実施にあたって、白蟻防除施工賠償責任保険（以下賠償責任保険といいます）を登録申請の条件の一つとしております。賠償責任保険への加入が登録条件の一つになっているからというだけの理由で、十分の理解・研究をすることなく、保険加入をしている方が多いかとも思われますので、今回、この賠償責任保険について説明し、理解を深めていただくことといたしました。

防除作業施工中に事故が起きた場合、例えば従業員が照明灯を誤って壊し、その破片で身体に傷を負ったものについても、保険事故の対象として申請してしまう人があるなど、果してこの事故が賠償責任保険の対象となる事故なのかどうか、判断のつかぬままに独自で事故処理をしてしまうケースもあり、一般的にこの保険についての理解度が極めて少ない実態が見受けられます。

そこで「賠償責任保険」の基本的なことだけでも理解して頂くことによって、単なる登録の条件のための保険加入から、自己の営業を推進するための保険とし、ひいては顧客の信用獲得の一助として、セールス手段にもこの保険を役立てることができれば、若干高い保険料もその価値が生きてくるといえます。

### 賠償責任保険のてん補範囲

(1) 防除施工中の偶然の事故によって他人（第三者）の身体を傷つけたり、第三者の財物を損じたりしたために生じた法律上の（施工業者として）損害賠償責任を負担することにより、施工業者がこうむる損害を（保険会社が）てん補する保険です。

(2) いいかえれば、防除施工業者が請負業務遂行のため、所有、使用、管理する諸設備の欠陥や、管理の不足から生ずる偶然の事故により、他人の身体や財物に損害を与え、被害額を請求され、賠償責任を負担することになり、そのため、施工業者のこうむる損害額を保険会社が賠償責任保険の各条項にもとづいて、てん補する保険です。

自動車保険は現在、独立した保険となっていますが、これも賠償責任保険の一種にはかたまりません。今や日常語となっている自動車保険の中の担保内容の一つである「対物」「対人」を自動車事故から防除施工上の事故と置き換えれば、よく理解されると思います。つまり、「他人の身体を傷つけたとき」の応急手当費、治療費、通院費、入院費などが請求された場合や「他人の財物を破損したとき」の買換えの要求、修理費の請求がなされた場合や、さらに、不幸にして裁判になった場合には、裁判費用、弁護士費用もこの保険の対象となります。

従って、この賠償責任保険は、その字句の示すとおり、対他人のためのものであり、保険の加入者である施工業者（本人、親族、従業員、下請業者、アルバイトなど）自身の身体や財物に与えた損害のほか、防除施工をしたにも拘らず、しろありが再発生した場合の建物の修復費用や、再度行うしろあり駆除費用などはこの保険の対象とはなっておりません。

また、施工業者など防除作業をする者の所有、使用する機械、器具、衣服なども「他人の財物」ではないので、この保険の対象ではありません。

### 保険の対象となる事故の例

(1) 散布した防除薬剤によって、他人の所有物を汚染、変質させたとき。

しるあり防除の目的物である建物は、原則的には対象物となりませんから留意すること。

(2) 薬剤散布により、他人が中毒したり、愛玩用動物に被害を与えた場合。

飼犬、飼猫、小鳥、観賞用植物などは、その価値の決定が極めて困難なものです。保険云々以前の問題として、防除施工にあたっては、特に注意すべきものです。特に、防除薬剤は低毒性であっても、溶剤、乳化剤による小動物の被害が起こっています。このような被害の起きぬよう、薬剤使用にあたっては添付注意書はもとより遵守し、万全を期して下さい。

作業終了後、使用した器具を洗った水が池に入って魚類に被害を与えても、作業上のものでないため、保険事故の対象とならず、施工業者自身が池の水替にも多くの費用を負担した例もあります。

火災保険に加入の有無に拘らず、常に火気には注意し、自動車運転者が「通行人に注意」を第一の心得としているように、賠償責任保険の対象を十分理解するならば、防除施工上の注意すべき事項となり、安全作業の心得ができるというものです。

(3) 作業中にドリルの刃が欠けて飛び、たまたま居合せた他人を負傷させた場合。

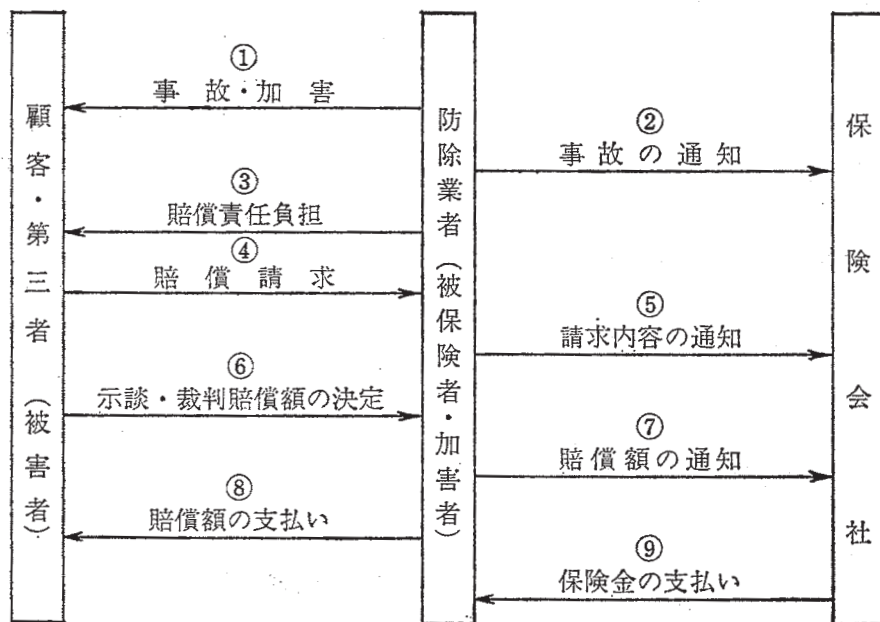
但し、負傷した者が防除施工業者関係の人であれば、保険事故の対象からは除外されます。従って、使用する工具類の整備、点検は怠ることのないように心掛けることになります。

(4) 動力噴霧機が引火し、隣接の門、塀などを焼いた場合。

但し、動噴、ホースの焼損は保険事故の対象から除外されます。

以上により賠償責任保険というものが、どういう保険であるかお判りになったと思います。元来保険というものは、万全の注意を怠らず、細心の点検などをしていても、なお起こるであろう偶然の事故に対応して、付保されるものです。事故は、被害者、加害者いずれにも利益をもたらすものではありません。幸い、損害の賠償金がてん補されたとしても、イ) 陳謝、ロ) 見舞、ハ) 損害額の決定、ニ) 場合によっては裁判など、貴重な時間を費し、神経をすり減らし、特に防除業者としての信用の失墜など、有形、無形の損失は極めて大きいものがあります。

しかし、万全を期していても、事故は皆無ではありません。不幸にして事故発生の場合の保険手続きを略記しておきます。



(日本マレニット株式会社専務)

# しろあり防除普及への提言

船 山 一 郎

シロアリに関心の深い諸先生、諸先輩方により日本しろあり対策協会が発足し、多年の研究によりシロアリ防除の基準が制定され、シロアリ被害撲滅のための具体策が樹てられ実施されている。今後の問題としては如何にして予防駆除の普及を進めるかになるが、防除業者の立場から考えてみたい。

シロアリ防除とくに新築予防の普及は建築基準法等、法制化の場合を除けば、被害に対する認識と防除費用の低廉の問題となろう。必要性の認識が高まり費用がかからなければ実施するのが当前で、ほっておいても普及するだろう。

## 1. シロアリ被害に対する認識

従来、対策協会を中心として行われている一般および建築専門家に対するPRの一層の強化を望みたい。そのために一般需要家の立場から容易に理解できるような方法で

- イ 地域別の被害発生率
- ロ 防除作業の有効性
- ハ 業界の信頼性向上等について従来行われている羽蟻シーズンの各地における相談室の開設の他に
  - イ 一般向け雑誌、新聞へ広告および啓蒙記事の掲載数の増加
  - ロ 建築の専門誌に被害、防除法の紹介
  - ハ 日本しろあり対策協会並に業界を積極的にPRする。

新聞の質疑応答等で住宅コンサルタントのシロアリの説明で誤りがあることが少なくない。シロアリに関することは白対協というのが、ニュースの尖端に行く新聞記者に徹底不十分と思われる。

## 2. 防除費用の低減

もっとも手近な直接費について考えると薬剤費と施工人件費となる。前者については必要な性能の薬剤を無駄なく使い、後者は施工法の改良により短時間で効率よく処理することである。

以上は施工の技術上の問題として既に標準仕様書が学・業界で検討され立派なものが完成されているが、実状に即した合理化が必要なのではなからうか。

防蟻剤の原体は比較的高価であり散布密度が大きい。大きな残留効果を必要とするため使用量も多量となる。従って実用上必要な最少量を決定することは防除費の低減に大きく影響するだけでなく、環境の汚染防止上からも好ましい。既に制定の標準仕様書は学術的立場から十分な安全率を考慮された完全なものであるが、業者の立場から実施の難しい面があり、例えば土壌処理使用量5~10 l/m<sup>2</sup>、木部処理の間隔を置いた2回施工等効率の面から完全実施が難しい。薬剤の使用量についても施工の効率、施工費の低減のために有効度101%というギリギリの線を求めることは不可能だろうか。良心的な施工業者は少なくとも5~10年の保証責任のもとに工事を行い、自社使用薬剤の最低必要量を擱んでいる訳で、無記名アンケート等で或程度の推定は出来よう。研究試験並に学・業界立会による実地試験により薬剤使用量の限界を求められないだろうか。

## 3. 油剤の乳剤化

土壌処理剤は乳剤が多く使用されるが更に木部処理剤の乳剤化が実施できると、薬剤コストの引

下げとともに散布時の引火の危険がなくなり、石油系溶剤の省資源化にもつながり好ましい点が多い。問題点は薬剤の滲透性、木材の含水率の増加、耐水性となるが、既設の駆除では乳剤タイプの駆除剤を土壌処理と兼用で使用する例もかなりあるようで、新築予防においては散布後の乾燥は既設の場合より良い条件にあり、薬剤の滲透性については油剤に比し理論的に差があり劣るが、実用上支障は少ないものと思われる。油剤の乳剤化により薬剤コストの低減、安全性の増加、省資源化に有効と思われるが如何なものか。

#### 4. 施工法の改良

低毒性の薬剤が要望されているが残効性の点で問題があり実用化が難しいようである。最近ピレスロイド系薬剤が市販されてきたが何分にも高価

である。残効性が従来品の数分の一と短くても低価格の薬剤を使用して施工費が極めて安価ならば、短期間毎に散布することにより予防は可能である。

従来の施工法の発想を変えて既設の場合、床下に入らなくても良い散布法があれば、施工時間の短縮、作業の軽減、作業者に対する薬剤の影響は激減し施工費の低減も可能となろう。

以上の多くは対策協会において従来から検討され実施されて来ているが、一般需要家に対するシロアリの害の一層のPRと実施し易い新築予防の普及を、業界においては利用し易い価格を実現するための再検討と業者の信頼性向上に一層の努力が必要と思われる。

(協立ハウスヒール(株))



# しろあり問題についての提言

菅 原 陸 郎

昭和30年東京都目黒区都立大学近くに住んで居りましたが、都心とは云え当時は手動ポンプで井戸水を汲み上げ、炊事・洗濯・風呂の用に供して居りました。偶、台所の床がガタガタになり抜け落ちそうになりました。どうせ湿気で束や根太が腐っているのだらうと思い床板を外しました処、腐った大引・束から白い虫がゾロゾロ這い出して来て吃驚させられました。玄関の敷居・塀からも発見され、当時はまだこれという対策を知らぬまま廃油をぶっかけて殺し補修を致しましたが、都会育ちの私がシロアリに出会ったのはこの時が始めてでした。

それから幾多の変遷を経てシロアリ防除業に携わる事になり多くの建造物の防除処理を実施して参りましたが、最初のシロアリとの出会いは鮮明な印象としていつも脳裏に焼き付いて居ります。

時代の発展と共に和洋折衷の建築構造の変遷・冬季暖房の発達・建築材料の変化・地価高騰による宅地の細分密集化その他いろいろの条件が都市に於ける建造物内の湿度を高くし、シロアリ繁殖・伝播の絶好条件を整え被害は年々増大の傾向にあり、我々防除業者の社会的使命が俄にクローズアップされて参りました。

將に本年は協会創立20年に当たり、今日に至る迄の各位の並々な御努力・御研鑽に深甚の敬意を表するものであります。

しかし乍ら斯界の発展と共に処理業者の増加、就中客の弱味につけ込み宣伝のみの金儲主義アウトサイダー業者による社会的不信を招く事件も、世上を賑わし始め大きな問題となって来て居ります。我々登録業者はシロアリが漸く社会問題としての認識が高まって来た証左と受け止め、使命の

重責に鑑み良心に従い襟を正して一層精進の秋であると自覚致します。

協会及び登録企業会員諸士に於かれても、日夜業界発展のため施策を講じられている事と存じますが、過去の実情を顧み問題点を提起し将来の資として大方と共に御考察を得たいと考えます。

## 1. 企業登録制の充実

正会員を公に発表し特に薬剤メーカーがアウトサイダーに薬剤を販売しないよう、何等かの指導措置を執るよう配慮を望みます。

それと共に正会員より年間施工実績を協会に提出し、その統計資料を以て公に対し法的措置に依り建造物の保存について積極的に推進するよう、関係機関と共に一段の御考慮を望みます。

## 2. 防除施工士の研修について

防除施工士登録者を対象として随時研修会を開催して見積・施工法・防具・薬剤等についての最新の情報を提供し、且つ実務を研修せしめ、以て技術及び信用の進歩向上に資するよう対策を推進されん事を願います。

## 3. 施工価格について

施工費は概ね $m^2$ 、坪建てとなっていますが、建物の大小・被害の多寡・作業の難易・シロアリの種類により作業時間、薬剤費が相違して来ますので、基本価格プラス右条件を加味した建値を検討する要があるのではないのでしょうか。

なお調査・診断は肝要な業務であり、専門知識と時間と経費を要します。適切な費用を請求出来るよう業者の団結が必要であると思えます。

#### 4. 保証問題について

保証期間が長い事を以て宣伝の具に供されている感がありますが、本来完璧な工事を施せば保証は不要のものと考えられます。責任を明らかにする事であれば一応保険会社で保証する5年に統一して妥当と思われます。土壌処理が出来ない構造物については特に一考を要します。

#### 5. 苦情処理機関設置について

シロアリの再発生、工事の不手際による家財、動植物の損害についてのクレーム処理に不誠実な業者が居りますと、顧客の恨を買い業界全体の信用に響きます。当然施工業者が速かに処理補填すべきであるのに放置され顧客が泣寝入している場合、適切な指導処理機関を設け顧客と業界全体の利益を護る事が肝要と考えます。それと共に不誠

実な業者をシャットアウトする措置を考慮する事も必要です。

#### 6. 職業病の問題

薬剤の取扱いには慎重を期し、防具の着用を厳守しているものの、毎日の使用による体内蓄積が考えられます。毎日の保健のため特に解毒剤、保健剤に関する資料の研究公開を望みます。

その他諸々の問題について大方の諸賢も御研鑽の事ではありますが、要は個々の業者の良心の自覚であり、業界全体が小異を捨て大同に就き一丸となって社会の要望に応える事でもあります。

協会創立20年を記念し祝意を表すると共に、各位と共に益々業務に精進し、より一層社会に尽したく拙文を認めた次第であります。

大方諸賢の一層の御発展を祈念致します。

(大心産業株式会社防除士)

## 茶碗一杯のシロアリ

宮 田 光 男

「お茶碗悪いのがありましたら、一個貸して下さい」ヤマトシロアリの防除施工の出来事です。8畳の中央の畳を上げた場所で、施工先の奥さんにお茶碗を要求した所です。木造平家建150㎡、築後35年の大きな住居です。家の人のシロアリ発見は畳表替えの時畳を上げ、床板と畳床にびっしりとシロアリが動いているのを発見され、防除工事の依頼を受けた次第です。蟻害は畳を食われた6畳床下はもちろん、建物の床下構造材3分の2は、大小の蟻害、蟻道が床下に広まり、特に部材の米松は深部まで空洞状態に食害されて、アリ数も多くいたるところで見ることが出来る。ヤマトシロアリの成虫（羽アリ）は庭先から飛び出したのか家の人は気がつかれてなく発見が遅れた原因だと思えます。午前中は、電気ドリルでの穿孔主体に作業を進め、土中の蟻道を20cm程度掘り薬剤注入の為の準備でした。明日、薬剤注入処理をすることにし、午後から上部浴室、勝手口、玄関、便所等の穿孔を2人で、1人が穿孔1人が自社の掃除機でゴミをとる作業をしています。奥さんはげげんそうな顔で「ハイ」これどうぞと茶碗1個用意して来られました。上の作業が終るまで3～40分時間があるので床下に茶碗一個持込みました。さあ茶碗をどうするのでしょうか、お茶碗にシロアリを入れて持って上がるのでしょうか、そうです。しかし茶碗は床下に置いて上がって来ました。今日の作業はこれまでです。帰りぎわに庭で羽アリを数匹見ることが出来た、羽は身体より長く透明で身体は黒褐色ずんどうで細長く、飛んでいるのは前翅と後翅がバラバラに羽搏き、前翅と後翅は同じで4枚あり、落ちてごそごそしているのは羽が取れているのが多く、その附近で羽だけ

をのこし一部の成虫は見る事が出来ません。だがよく見ると2匹前後して歩いているのが見つかった、前が雌、後からくつつきぎみに追っかけているのが雄です。これから巣を営む場所探しなのです。ヤマトシロアリは日本古来のシロアリで季候に適し、固定した頭の大きさの巣さえ作らないで生活出来る訳です。羽アリを見ると元気になります。今日も多くの家からシロアリの羽アリを発見され、注文依頼が数10件とあるからです。事務所への帰途が早くなる。あくる日2日目の作業現場です。家に着くとうまいことに御主人がいらっしゃる。防除業者の請負防除費用はまだまだ安いが、防除依頼する家から見ると高いと思う防除費用。御主人とシロアリの被害例—4年6ヶ月目で住居の桁梁を食害され建て直しされた家、新築2年目にして柱土台を食害されたなどの話をしている、御主人が内にもたくさんのシロアリがいました。畳を上げた時見ていないものでといわれる。「ハイ」特別にシロアリ多いですよ、さあ腕の見せどころです。ちょっと待っていて下さい。床下に入り2、3分で床下より出て来て見せました。「茶碗一杯のシロアリを」大半職蟻（ハタラキアリ）木屑なしの純粋なシロアリ数千匹です。新聞紙に移したとき、御主人、奥さんともびっくりされたことは言うまでもない。それではシロアリの採集法を書くことにします。第一に防除日が2日以上であること、そしてアリ数が多いこと、第二に防除のための薬剤注入と構造上支障がないこと。今回の場合は6畳の床下大引が1本だけ米松で床束は檜、大引は深部まで空洞状に食害し、束は2本入り大引食害のための通路程度しか食害なく、束石には侵入の蟻道(蟻土)が一方は大きく2本、片



方の束石には小さい蟻道が1本だけ、当然主力は2本の蟻道の方を利用している。その主力の方の床束をはずす。この時は新しい床束を20cmはなして最初に補強して取外す床束が少し浮く程度に補強する。取りはずしが簡単であり又、大引に食い込んでいる個所がきれいに取れる。大引の取口がよじれることがあればドライバーできれいにする。一般に大きい住居の束はほぞで大引に食い込んでいる、大引の凹んだ所がシロアリ採集口である。ほぞがない時は電気ドリルで真下より大引に2ヶ所穴を開ける。この時も穴の中でよじれが生じているのでドライバーで食害跡の年輪の所をドライバーできれいにしておく。すなわちシロアリの落とし穴を作ったことになります。次は大引の両端に穴を開け、油性の薬剤を少量注入する。大引両端まで蟻害が進行していない時は、蟻害の最先端に穴をあけ薬剤注入する。床束が別にあるので床束の上より5cmの所に穴をあけ薬剤注入しておく。つまりシロアリは土中へ帰るべき床束のところに集まって来るが、床束がなく土中へ下りることが出来なくなる。取りはずした床束の束石の上に新聞紙を置きその上に茶碗を置く。準備は出来上がりです。近くに外部との通気孔があれば風が入るので蓋をしておく方が良い。これでおわかしと思うが、シロアリは大引食害中何年もの間、昼夜の別なく土中と往復して働いていた訳です。シロアリの社会生活分業の内土中へ帰れないことだけでも大変です。先端にいるシロアリは薬剤臭気の為と兵アリ等が危険信号を発し、大引のシロアリは通路で右往左往しはじめます。結局今までのべき所の蟻道へと集中しはじめます。下りる床束がありません。入り口付近でも右往左往がはじまり根負けして落下するもの押されて落下するもの、入り口付近で止まっても後から後から押され落下しはじめます。危険を感じると餌、水分ど

ころではなくパニック状態になり10時間は混乱状態がつづき、明日取り出す時部材の中のシロアリはほとんど元気がなく年輪と年輪の間で死んでいるのがあります。

茶碗の中ではほとんどのシロアリが死にかかっている足だけをゴソゴソと動かしている程度です。茶碗の横に落ちたのも少し山になり足だけゴソゴソしている状態でした。今回の茶碗一杯のシロアリは午後2時準備し翌日10時取り出したものです。御主人のびっくりした顔から防除依頼して良かった、これで安心と思う表情が読み取れました。束の補強と十分な薬剤処置をして完了したことは言うまでもない。又茶室3室を持つ大きな屋敷で1週間防除日数がかかる住居を紹介して頂きました。最後にイエシロアリの蟻害でハリで採集した時は茶碗にも入ったが、天井板に落ち室内にゴソゴソと落下数百匹、家の人が寝ているふとんに落ち、夜に電話があり走って現場に向いたこと、又梁に薬剤注入する時下部に穿孔していた為薬剤がこぼれ、梁の中に充分薬剤注入出来なくて困ったことなどありました。コップ1杯よりやや茶碗の方が大きい入れものでしたが、茶碗1杯のヤマトシロアリ推定6,000匹を数えることが出来ました。他蟻道の通路で赤インクをかけた頭の赤いシロアリを2階桁で発見した時もわれを忘れさせてくれました。もう一つ作業の心得として床下での電気ドリル使用は左手でドリルを持ち穿孔しないこと、湿気、汗等で電気ドリルにゴミ及漏電が生じると左手は力が弱く、心臓まで最短距離そして心臓の所が接地点になり、家電も油断が出来ません。

私もシロアリが好きです。シロアリと皆様方と共存共栄大いに勉強致しましょう。

(株式会社チューガイ白蟻研究所)



# しろあり防除施工見聞記

中 林 収

建築物とりわけ家屋を食害する「シロアリ、キクイムシ」に就いては、その学問を専攻される学者或は我々しろあり防除処理に携わる者以外の一般には、現今でも左程認識されていないようである。人によっては「建物に害虫が侵入するのは最早宿命だ」とか、「人間の身体が病気に罹ると同じだ」とか誤解も甚しい話さえ聞かされる。

この地域の斯様な状況下に於いて、しろあり防除施工には種々複雑な事情が絡んで来るのでその説明には中々苦慮する事が多い。「以前処理させたが3年も経ない内に食害された」とか（他は省く）この話ぶりからすると、その施工者が協会の会員でしたか将又「もぐりの業者」かそれは論外として、実際に善意で行ったか否か当然疑われるべきで、同時に我々全業者の上にふりかかって来る世間からの不信の甚大さを考えなければなるまい。

近時沖縄県地方全域の建物（住宅も含めて）は台風対策上か或は生活環境等の変化に依ってか、鉄筋コンクリート建が多くなった所為で総木造建物は漸次減る傾向にあります。それでシロアリ等の害に認識の浅い者になると「私の家はコンクリート建だから、シロアリに侵される事はない」と全く出鱈目を言う。「ならばその建物の内部構造には木材を使用してないか」と言い張ると「それはそうだが」と辻褃の合わぬとは此のことでしょうか啞然とします。

ところで我々防除処理業者が誠意を持って事に当り（私は斯く申し上げ度い）貴重な財産を害虫の食害から守ろうとしても、住民皆がそれに応えて貰わねばその地域の害虫類を退治するのは到底

望めないし、卑見を述べる迄もなく仮令一部の人々に理解があつて（シロアリ等の被害の恐ろしさに）部分的に予防駆除処理を施しても、大局的見地からだとまさしく「氷山の一角」としか言い様はありません。大体シロアリ等の食害を「建物の宿命」と意識して予防や駆除に関心がない者が多いためか、ここ数年蔓延の度は目立って来た感じがします。外部がコンクリートか金属板等で造った建物なら害虫には侵されないと考えているのが可笑しく（床下から這い上がるとは毛頭認識がない）、それかあらぬかそれから4ヶ月後その建物は床下部材から食害が始まったか、床板、たたみ、果ては簞笥を抜けて衣類に迄害を与え使用不能にした状況等全く無智と侮り度い気にもなります。

惟うに建物の建築設計に当っても家主を中心に「住みよい家造り」を話し合ひできめ、建築にかかってからは順調に工事が捗る様設計するのが妥当と思うが、時折建築士独断で部屋の間取りをきめて後で口あらそいをした例もあり、我々の防除施工でも施主の要求を極力尊重して進め、聊かも手落ちのないよう的確な工事を施すのが防除士に課せられた当然の役目ではないかと思う。仮初にも身勝手な行為は一步間違えば前述のように不信を招く結果にもなりかねないのではないのでしょうか。願わくは我々防除士一人一人が誇りを持って事に当り住民の信頼を得るのが、ひいては日本しろあり対策協会の今後の大発展に繋がると思ふものです。

終りに協会の先生方並びに会員諸彦のより一層の御健闘と御発展を祈念致し手記をとめます。

（みるみ白蟻工事社しろあり防除施工士）

# ヤマトシロアリの群飛と気象

安 達 洋 二

日本列島は一衣帯水で、大陸にそって花びらが散っているようなので「花綵列島」の別称がある。緯度24°~45°の北から南に長々と大陸にそって位置し、その地形は山がちの島国であるために、面積の小さい割合に気候型の種類にとんでいる。

この日本列島の北は北海道から南は沖縄まで、広く全国的に分布しているヤマトシロアリは、昔からその生息が知られていて、南島系のイエシロアリとともに「ミゾガシラシロアリ科」に属している。兵蟻における頭部の形から現在では5亜種に区別され、同じヤマトシロアリ属のシロアリはヨーロッパ・北アメリカ・中国大陸（朝鮮を含めて）に広く分布している。この変温動物のシロアリは意外に耐寒性にとみ、気温が6℃内外でも活動し、12℃（最適温度28℃）を越すとその活動は活発になるとされている。春すぎの季節になるとシロアリの生殖虫である羽アリ（有翅虫）は、気温の上昇した日に、一生一度の繁殖のための群飛（昼行性）をする。その時期は南の沖縄県では2月上旬、北の北海道では6月上旬がピークと報告されている。有翅虫の群飛は雨あがりの晴れた気温の高い正午前後が好適のようである。有翅虫はニンプ（擬蛹一不完全変態）が分化発育して羽化成長となり、群飛のある数日前から晴れた日に、原始的で未発達なこれらの巣である被害材の外側にあけられた孔道から触角を空中に出して動かす動作がみられる。その動作はあたかも飛翔に適した気温・明るさ（日照時間）ならびに湿度などの気象条件を学習し、かれらの祖先が習性として身につけた群飛好適日をまわっているかのように感じられる。

この羽化のしくみや、群飛の好適日を予知でき

る未知能力なるものは、すべて環境サイクルの気温の変化による刺激、すなわち外因性によるものとされている。また、気温の上昇にとまらぬ生殖フェロモンのたかまりなど、シロアリの羽化のしくみには興味ぶかいものがある。このように、羽化のしくみのすべてを支配している気温の変化は、四季ごとの太陽の日射角度（南中高度）のちがいによって地面が受ける熱量がかわり、一年を周期として変化を生じ、また緯度による気候の差も大きい。この緯度のちがった沖縄・九州・中国地方の「南中高度」と、気温、日照時間、ならびにヤマトシロアリの群飛（羽アリ）時期を調べてみた（第1表）。

第1表 各地における群飛の時期と緯度および気温  
(月・旬は群飛時期, 気象は月表)

地 名 県・市	緯 度 。	月 旬	南中 高度	日最高 気温℃	日 照 時間h
沖 縄 県 那 覇 市	26.02	2 月 上 旬	52	19.8	4.5
鹿 児 島 県 鹿 児 島 市	31.6	4 月 上 旬	61	20.6	6.5
福 岡 県 福 岡 市	33.6	5 月 中 旬	67	22.1	8.2
山 口 県 山 口 市	34.01	5 月 中 旬	66	23.9	7.4
島 根 県 松 江 市	35.5	5 月 中 旬	65	23.7	7.6
北 海 道 札 幌 市	43.0	6 月 中 旬	65	23.9	4.0

気象は各地の気象台観測資料月表より転記し、「南中高度（太陽の高さ）」は黄道傾斜角として天文定数（1900年）として23°27'8.26"を採用しているため、23.4°として計算した。第1表から、

南と北では明らかに緯度の相違からくる気候のちがいがわかる。第2表に前記各地域の群飛ピーク時と気象をまとめた。

第2表 各地の群飛ピーク時と気象

地 名	群 飛	日最高	湿度	日 照	季節はず
県・市	月・旬	気温℃	%	時間h	れの発生
沖縄県 那覇市	2 月 上 旬	19.8	64	4.5	資料ナン
鹿児島県 鹿児島市	4 月 中下旬	21.0	75	5.5	3月2日
福岡県 福岡市	5 月 上中旬	22.0	65	6.6	資料ナン
山口県 山口市 美禰市	5 月 上中旬 〃	25.1 〃	60 〃	6.1 〃	資料ナン 1月下旬
島根県 松江市	5 月 上中旬	22.6	62	6.9	資料ナン
北海道 札幌市	6 月 中 旬	23.9	73	4.0	4月4日

次に、札幌市・防府市における群飛時を日別に調べてみた。

第3表-A 札幌市における群飛と気象  
(青山氏の調査資料)

群飛時の 月・日	日最高 気温℃	平 均 湿度%	天 気	南 中 高度。	日照時間 h
4. 4	6.0	53	快晴	50	9.6
6. 11	22.5	90	曇	65	4.7
6. 12	22.0	89	曇	65	2.8
6. 13	23.7	58	曇	65	3.9
6. 15	20.6	71	曇	66	1.8
6. 16	28.0	44	晴	66	10.9

第3表-B 防府市における群飛と気象

群飛時の 月・日	発 生 時 間	日最高 気温℃	日平均 湿度%	天 気	日照時間 h
5. 1	13	26.3	80.3	晴	10.5
5. 5	13	22.8	80.5	曇	7.9
5. 8	15	21.8	88.3	曇	5.6
○ 5. 9	13	21.8	85.0	曇	4.6
○ 5. 11	16	23.8	76.0	晴	8.9
○ 5. 13	14	24.8	65.3	晴	11.0
○ 5. 16	15	24.6	76.5	曇	6.7

注：気象は地域気象観測所（防府消防署）の観測資料を転記した。○は群飛のピークを示す。

このほか中国地方の岡山・広島・鳥取各県のピ

ーク時は5月上・中旬と報告があった。中国地方と同緯度四国松山市（緯度33.8°）のピークも5月上・中旬の報告がなされている。東北地方では春がおそく、南中高度も5月上旬すぎて61°となり、5月下旬～6月上旬に群飛がみられるとの報告がある（しろあり機関誌18, 26号）。

第2・3表に記載した季節はずれの羽アリの発生個所の環境状態を検討してみた（第4表）。

第4表 季節はずれの羽アリの発生と気象

(場所) 県・市 建物の名称	調査時 月・日	日最高 気温℃	室温 ℃	照明による 明・暗 h
山口県美禰市 電報電話局	1 月 下旬頃	10	20	1日中照明 24:0
鹿児島市内 クリーニング店	3. 2	12	28	作業時間中 14:10
北海道札幌市 喫茶店	4. 4	6	20	営業時間中 13:11

調査資料は、北海道の青山氏、鹿児島市の上野氏、防府市の加藤氏の協力を得た。北海道における4月4日の羽アリの発生は、青山氏の言をかりれば例外中の例外とのこと、第4表の資料はまことに少ない例ではあるが、シロアリの不活発になる冬季に人工照明による明るさのある場所で、室温も通常群飛がみられる時の気温位はある。別に1例ではあるが、病院のレントゲン室（建物の北側）では冬季にかなりの室温はあっても、第4表の3例のような室内に明るさのない場所では、やはり5月上旬に羽アリが発生している。もし第4表の3例のように明るさがかれらの羽化リズムになんらかの形で関与した場合には、羽化リズムの速度がはやまったのではなかろうかとも考えられる。紙面の許すかぎり推考を加えてみよう。

〔推考〕

有翅虫の羽化のしくみは、気温の変化による刺激がすべてである外因説で説明されてきた。第4表の3例の明・暗時間比が羽化リズムに関与したと考えるならば、そこに内因性（サーカディアンリズム・生物時計）の存在に対する疑問が生じてくる。今後とも例外的な早期スオーム資料を集めて経験則をあてはめてみたいと考える。ご協力を感謝し、皆様の反論を期待する。

(防府市中央町13-31 山口農芸化学試験所)



# 田無市におけるシロアリの被害について

石 崎 裕

## はじめに

一般に造成された住宅街で、シロアリの被害がその住宅地の全域におよんでいることがあるが、そういう報告例が少ないので、昨年調査によるものですが、報告します。

この調査をまとめるにあたり、田無市S自治会、田無市農業協同組合の御協力をえたもので、感謝の意を表します。

なおこのまとめは「しろあり防除処理業務基準」のしろあり被害調査チェックリストを参考にまとめたものである。

### 1. 施工期日

昭和52年7月28日～8月16日まで

### 2. 施工場所

田無市S4丁目6～12番地

### 3. 施工戸数

自治会内住宅 15戸

### 4. 施工担当者

大塚薬品工業株式会社環境衛生部員6名

### 5. 施工方法

日本しろあり対策協会仕様書による。

### 6. 被害調査の方法

施工を行いながら、被害調査チェックリストを作成しておいて、これを集計した。

またすでに予防施工済み住宅および被害をうけているが、未施工住宅があるものは、略図でこれを示した。

### 7. 被害調査の概要

#### イ) 建物の種類

約90戸の住宅のうち、15戸施工したもので、すべて木造建築である。建築年数は田無市役所の

説明によると、比較的早く建築された住宅であるという。6～14年以上を経過している。床面積は49m<sup>2</sup>以上のものは少なく、33m<sup>2</sup>前後の住宅が約半分をしめている。壁面は板壁が多く、床高は20cmの家屋もあるなど、新興住宅のいわゆる建売住宅の一般的なものである。

#### ロ) 被害状況

浴室が大部分、被害をうけ、居室、台所、ベランダ等の順である。床下は土台、床束が侵食をうけ、根太、床板、柱におよぶものもあった。家屋周辺は敷地面積が狭いことから、腐朽木材がなく、殆ど被害はなかった。

#### 8. シロアリ被害調査結果

施工住宅のチェックリストを作成し、これをまとめた結果は、次のとおりである(第1表)。

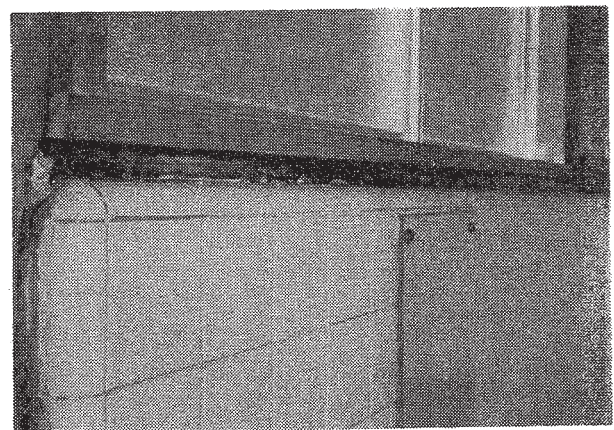


写真1 浴室の被害



第1表 シロアリ被害調査

項 目	チ ャ ッ ク 結 果			
1. 調 査 日	昭和52年7月28日～8月16日			
2. 建物の所在地	田無市S4-6 計15戸			
3. 建物の種類				
(1) 種 類	① 木造住宅 14戸	② 木造店舗住宅 1戸		
(2) 建築年数	① 6～10年 11戸	② 10～14年 3戸	③ 14年以上 1戸	
(3) 面積	① 33m <sup>2</sup> 以下 6戸	② 33～49.5m <sup>2</sup> 6戸	③ 49.5m <sup>2</sup> 以上 3戸	
(4) 外壁構造	① 板 壁 9戸	② モルタル 5戸	③ 併 用 1戸	
(5) 基礎高	① 15cm以下 2戸	② 15～35cm 8戸	③ 35～60cm 5戸	
(6) 床 高	① 20cm 2戸	② 20～40cm 4戸	③ 45cm 以上 9戸	
4. 保守状況				
(1) 屋根雨もり	① あ り 0戸	② な し 15戸		
5. 被害状況	被害率			
(1) 床面、浴室	① あ り 10戸	② な し 5戸	66.6%	
台所	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
洗面所	① あ り 0戸	② な し 15戸	0%	
玄関	① あ り 2戸	② な し 13戸	13.3%	
トイレ	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
居室	① あ り 2戸	② な し 13戸	13.3%	
(2) 附属建物				
物置	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
ベランダ	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
(3) その他				
木屑	① あ り 3戸	② な し 12戸	20.0%	
6. 床下				
土台	① あ り 8戸	② な し 7戸	53.3%	
床束	① あ り 3戸	② な し 12戸	20.0%	
大引	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
根太	① あ り 2戸	② な し 13戸	13.3%	
床板	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
7. 床体面柱	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
テラス	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
8. 腐朽箇所	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
9. 家屋周辺外周	① あ り 1戸	② な し 14戸	6.6%	
10. シロアリの種類				
施工時発見	① ヤマトシロアリ 15戸			100%
	② イエシロアリ 0戸			0%
	① 発 見 2戸	② 未 発 見 13戸	13.3%	

9. チェック結果のまとめ

イ) 被害の概況

① 施工申込みをうけた15戸のうち、侵食を確認されたものも15戸で、全戸数が被害をうけており、100%を示した。

② 被害個所からみると、15戸中、浴室は10戸(66.6%)、木屑侵食3戸(20.0%)、玄関および居室各2戸(13.3%)、台所、トイレ、物置、ベランダ各1戸(6.6%)であった。床下被害からみると、土台8戸(53.3%)、床束3戸(20.0%)、根太2戸(13.3%)、大引、床板各1戸(6.6%)である。その他柱、テラス、家屋周辺各1戸(6.6%)がみられた。

③ 加害種はヤマトシロアリとみられる。

二階、天井などにいたる被害はみられなかった。

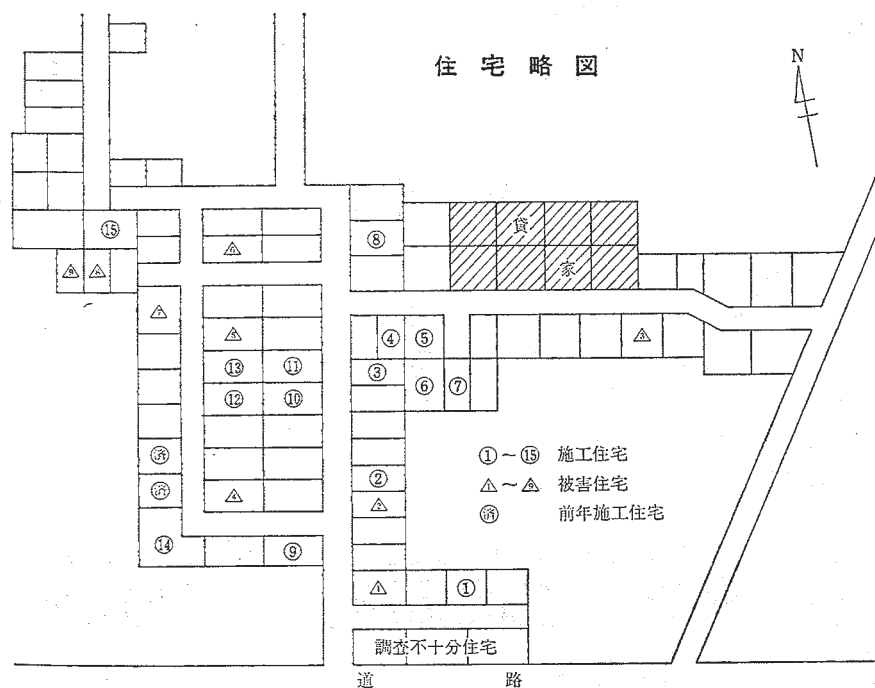
ロ) 建物の環境

① この住宅地は畑地跡の造成地で、床高、基礎ともに、比較的に低く、多湿地帯である。



写真2 床板の被害

② 住宅地内に2戸の空家があり、いずれも、毎年、羽アリが群飛して、境界から1メートル前後の隣家にシロアリの恐怖心を与えている。本年8月20日現地調査のところ、空家のうち1戸は入院患者宅のため、市で薬剤処理を施したとのことである。この空家は昨年8月は台所の天井まで侵食を確認している。



第1図 住宅略図

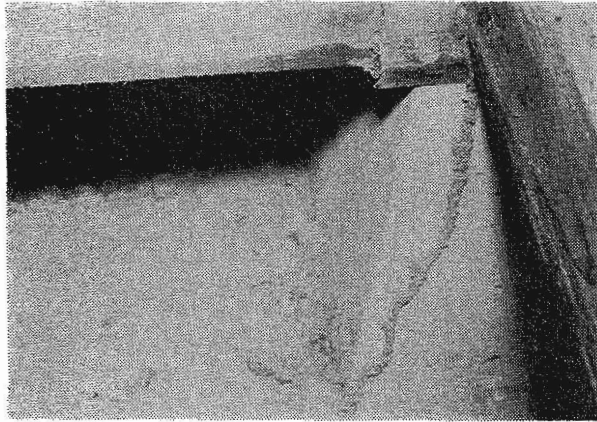


写真3 束石の蟻道

③ 施工完了住宅15戸の他にその後施工した6戸と十分な調査のできなかつた住宅3戸計9戸がある。この他貸家が10戸あり、家屋周辺の外観、（垣根、玄関、古材侵食）がみられた。

## 10. 所 見

① 略図（第1図）をふくめて、チェック結果をみると、この住宅内では、局部的に発生しているのではなく、全域に発生している。その意味では業者のいう地域ぐるみの予防施工の必要をとく上での参考になるものと思われる。

② 全戸86戸中、被害住宅は34戸であった。

施工被害住宅15戸、面接調査被害住宅9戸、施工済住宅2戸、貸家被害住宅8戸をふくめると34戸である。この他に調査不十分住宅3戸（床下未調査のため、調査不十分とした）がある。

③ その後も同一敷地内の貸家などは、この調査と同様な被害ないしは、それ以上の被害例を確認しているので、このような場合、全戸施工が望ましいと考える。

（大塚薬品工業株式会社環境衛生部長）



# 本州日本海沿岸のイエシロアリ分布調査

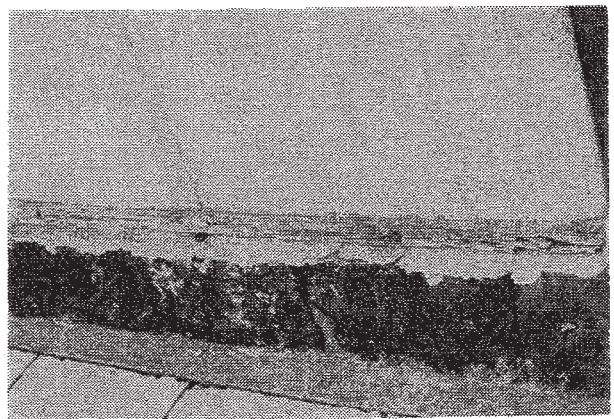
森 八郎・児玉 勝・山根 坦

本州太平洋沿岸のイエシロアリの分布は、戦前静岡県までであったが、戦後横須賀の米軍基地ならびにその隣接の横須賀学院に発生し、これが10数年後市街地にまで生息地域を拡大、定着し、また近年秦野市の一部小地区に飛火的に定着しているので、現時点では神奈川県を東北限としているが、本州日本海沿岸のイエシロアリの分布については詳細を欠くので、筆者（森）ら3名で昭和53年8月26、27日に調査を実施した。安達洋二氏（1977）の報告によれば、響灘に面する豊浦、油谷湾に面する油谷、長門市の深川・仙崎・青海島辺までイエシロアリの分布圏が東北進しており、萩市には生息しているのかどうか確認していないとのことであり、また1説によると、萩市平安古の萩工業高校裏母子寮付近でイエシロアリらしい被害があって施工したとのことであった。以上のような現地の事情から、筆者らは萩市を中心として調査を実施することにした。

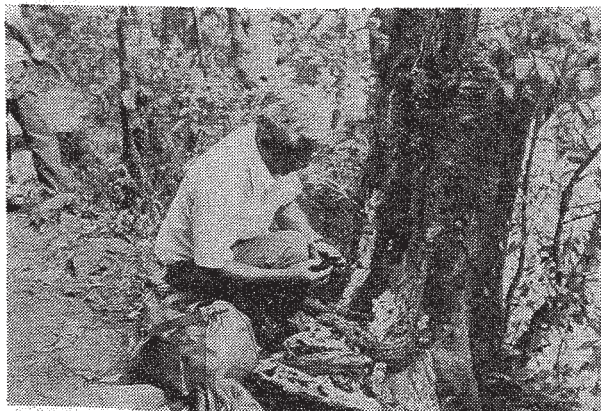
## 調査結果

まず最初に萩市から海岸沿いに調査を進めながら、東北進し、越ヶ浜・笠山を経て椿原生林に入り、この付近一带を最も慎重に調べながら、自然

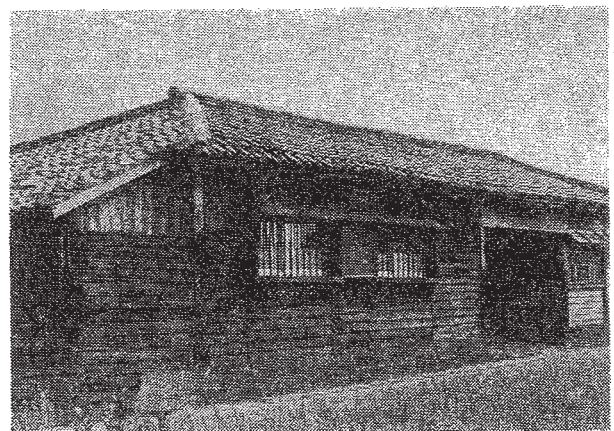
研究遊歩道を辿って明神池の方に戻ったが、イエシロアリは全然発見できなかった。椿原生林はかなり鬱蒼<sup>うっそう</sup>と茂っており、昼なお暗い状態であったが、筆者らの経験では、このような暗い繁みにはイエシロアリが生息していることはめったになく、大木が繁茂している場合には、その繁みが切れて急に明るくなったような場所には生息していることがある。このような経験から本地域にはイエシロアリが生息している可能性が少ないとの意見の一致をみた。



写真一 萩市平安古の萩工業高校裏母子寮付近の家屋土台のひどい蟻害（ヤマトシロアリ）



写真一 明神池付近の樹木の蟻害（ヤマトシロアリ）



写真一 同上地区家屋の軒の稜線が蟻害のために波を打っている状態（ヤマトシロアリ）



写真一 4 青海島八王子山公園でイエシロアリの大集団が営巣している巨大な伐根

さらに噂になっている萩市平安占の萩工業高校裏母子寮周辺の調査をとくに入念に行った。この付近の蟻害ははなはだひどく、おそらく萩市内でも代表的な被害地区であろうと思われるが、被害はすべてヤマトシロアリによるものであった。したがって、現時点においては萩市にはヤマトシロアリのみが生息しており、イエシロアリははまだ定着していないとの結論に達した。

ついで萩市から以西の海岸線に沿って調査を進めた。小島・野波瀬でも蟻害は所々に発見されたが、いずれもヤマトシロアリによる被害であり、多数のヤマトシロアリを採集した。青海島の青海大橋付近に至ってはじめてイエシロアリの被害を発見し、八王子山公園では巨大な伐根にイエシロアリの大集団が生息しており、シロアリ探知機、Sonic Detector SD-III を用いて活動音を探知したところ、非常に大きな反応音を聞くことができ、活力旺盛な多数の個体を採集した。この地は

本州日本海沿岸における自生タチバナの東北限地であるが、本州太平洋沿岸では静岡県がやはり自生タチバナの東北限地になっており、イエシロアリが戦前静岡県を東北限地としていたのと分布状態がまったく一致していることに気づき、興味深く感じたが、これは周囲の環境条件、とくに温湿度条件がきわめて一致していることに帰因すると考察する。

以上の調査結果を要約すると、つぎのとおり結論となる。

## 結 論

1) 現時点では萩市にはヤマトシロアリ1種のみが生息しており、イエシロアリはいまだ定着していない。

蟻害の程度は地区によってかなり甚大なところもあるが、日本海側の気候のせいか被害密度はそれほど高くなかった。

2) 本州日本海沿岸のイエシロアリの分布は、現時点では青海島地区が東北限であり、太平洋沿岸の静岡県とともにタチバナ自生地東北限とまったく一致しており、環境条件の類似によると考察された。

(以上の結論は現時点の調査の結果にもとづいたもので、耐寒性の遺伝子を獲得した個体群が出現した場合には、もちろん分布圏が漸次東北進する可能性もあるので、萩市以東は今後も獰猛なイエシロアリの脅威からまぬがれているというわけではないことをお断わりしておきたい。)

(本協会々員グループ)



<創立20年記念座談会> **しろあり防除の今昔**

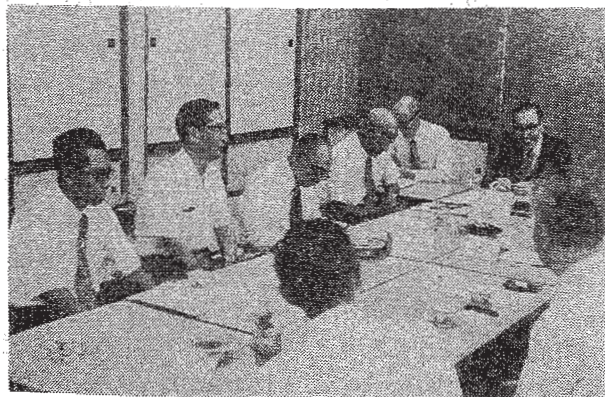
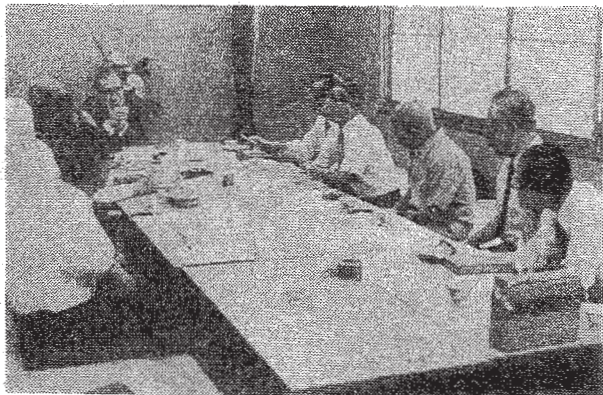
日本しろあり対策協会創立20年を記念して

昭和53年8月25日（金） 小豆島濤洋荘において

〔出席者〕

米本安秀（徳島，明治30年3月16日生）  
久保田博（宮崎，〃 33年12月20日生）  
中島泉（宮崎，〃 38年11月20日生）  
桑野田郎（福岡，〃 38年12月12日生）  
亀崎初蔵（東京，〃 39年3月17日生）  
波多野俊夫（山口，〃 39年8月28日生）  
前田保永（和歌山，〃 40年1月1日生）  
森脇熙史（広島，〃 44年8月16日生）  
小嶺幸一（沖縄，昭和3年10月14日生）

総司会 会長 芝本武夫  
〔機関誌編集委員会〕  
司会（編集委員長）副会長 森 八郎  
オブザーバー（編集委員）  
理事 神山幸弘  
事務局（編集委員）常務理事 香坂正二  
事務局長 三村二三男



司会（森） 協会創立20年を記念いたしまして、「しろあり防除の今昔」の題で座談会を始めさせていただきます。遠方からお集まり下され、ありがとうございます。とくに本日はご高令の方々にお出でいただき、まことにご苦労様

でした。深く感謝いたします。

皆さんのお手もとの表にございますように、今日は芝本会長に総司会をお引きうけしていただいておりますのですが、会長はご用事で遺憾ながら途中退場なさいますので、私が最後まで残って司会をやらさせていただきます。時間は十分ございますから、皆さんの話をゆっくり承らせていただきます。

それでは総司会の会長からご挨拶をお願いいたします。

会長 このたびはご遠方のところを、またこの





暑いなかをお出でいただきましてありがとうございました。

「しろあり防除の今昔」という座談会のテーマでこれからお話を承りたいと思います。シロアリ防除の問題も歴史的にかなり変化してまいっ

ております。この過去を顧みまして、将来どうなっているのが最も発展の道でありますか、このように考えますことが今後非常に参考になるんじゃないかと考えられまして、おそらく編集委員会の方でこの座談会を企画されたと思います。皆様のご協力によりまして、立派な成果が結ばれるようお願い申し上げます。

なお、本日の座談会は速記の方々に記録をとってもらっておりまして、十分に時間がございますから、膨大なものになると思われませんが、編集の方は紙面の都合でお話しいただいた全部を記事にすることはとうていできませんので、速記録からの取捨は一切編集委員会にお任せいただきたく、この際ご了承いただきたいと、かように存じます。

**出席者多数 異議なし。異議なし。**

では森先生の司会によりまして始めさせていただきます。

**司会（森）** それでは早速でございますが、始めさせていただきます。

まず時代を戦前と、戦後から協会設立までと、協会設立後の三つの期間に区切りましてお話を進めさせていただきます。それとともに各地方によりまして防除対策にかなりの特色があったと考えられますので、とくにそういう点につきましてお話しいただければ幸に存じます。

最初に戦前どのような施工法が行われておりましたかお話しいただきたいと存じます。

まず、最初に最も古いシロアリ駆除の大先輩の1人はここにご出席の中島さんのお父さんですから、中島さんのお父さんのお話を聞かせていただきたいと存じます。中島さん一つお願いします。

**中島** 私の父は明治5年生まれです。明治30年から始めたと申しますから、25歳くらいの時で



す。自分の家にシロアリがついているのを発見して、何とか防ぐ方法がないかというので、手をつけたのが最初でございます。それ専門に研究するわけにはまいりませんので、家族を養っていかねばならないということがござ

いますから、仕事のかたわらに研究したものであります。それから23年目に、大正8年になりますか、長い苦心の末、ようやく見通しがついたわけです。これで営業していても食っていけるという自信がついたので、特許をとらないと人に真似され、今までの苦勞が水の泡になるというので特許をとりました。それから大正末期までその特許の方法で仕事をしてまいりました。この際その内容を申し上げてみますが、硫黄を燃焼させて亜硫酸ガスを発生させ、吹子で蟻道に吹き込んでいくのであります。屋根の梁が食われたら、そのところに穴をあけて、亜硫酸ガスを30分くらい吹子で吹き込みます。吹子は手押しの吹子でございます。私もよく手伝わされたものでございます。ところが吹子が亜硫酸ガスでおかされて長く使えないのです。それで大正の末期頃までにそれを止めまして、今度は予防することを研究し始めたんです。それで予防するのに硫酸銅をお湯で溶かして流し込んでおりました。昭和の初め頃から亜硫酸を使ってやることを自分で研究したのか、人から話を聞いたのか判りませんが、亜硫酸を使い始めました。亜硫酸を使うようになってからは、前の方法は全然止めてしまって、亜硫酸専門で駆除と予防を続けてまいりました。明治30年から研究を始め、83歳で亡くなるまで60年間シロアリと共に生活してきた父でございます。父の死後私が正式に事業を継ぎまして現在にいたっております。

**司会** 中島さんのお父さんがやっておられたのは宮崎でしょう。九州のなかでも宮崎はシロアリの本場ですから、駆除の需要といえますか、方々からの依頼が沢山あったでしょうね。

**中島** 相当ありましたけれども、学者でも研究できない仕事をお前達のような無学の人間がどう

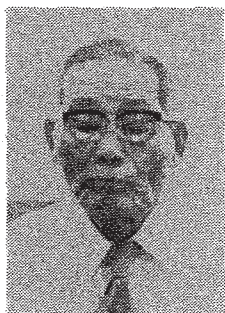
してやれるかといって、人がだれも信用しなかったものです。それで父が「そんなに疑うのだったら、保証します」といったことが、今日のシロアリ保証問題につながってきております。ほかの仕事には保証ということはないんですが、それも5年も10年も保証するというような業種はほかにございますか。それだけしなければ、人が信用しなかったから、事業の出発点に父がそれをいい始めたんです。これが今日のシロアリ保証の始まりだと思います。

その当時、ほかの業者、聞き覚えですが、稲村(?)さんとかいったと思いますが、大きな釜にお湯を一杯わかし薬剤を入れ、薪で盛んに燃やして蒸気を出し、その蒸気をドリルで穴をあけたところに吹き込んでいたのを見たことがございます。薬剤は何を使っていたのか判りませんが。

**司会** その当時の古い話はほかにございませんか。ご年配の米本さん、経歴の古い前田さん、いかがでございますか。戦前のお話を。

**米本** 戦前はあまり私はやっておりませんでした。

**司会** ああ、そうですか。前田さんは古くからやっておられたようですが。

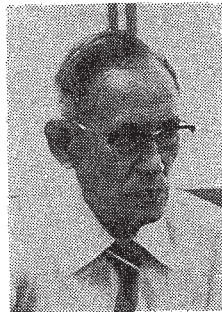


**前田** このような長いシロアリの仕事になるとは夢にも思っていなかったんですけれども。私の過去はだいぶ長いんですが、それは省略させていただきます。和歌山では、中島さんがおっしゃるようなシロアリで営業している

方はございませんでした。ちょうど私が勤めた会社、大正の末期でございますが、その会社で私がシロアリのやりはじめたんでございます。

**司会** 亀崎さんは台湾で古くからやっておられたと聞いておりますが。台湾の地域的な特色は内地とはずいぶん違うと思いますが、一つ昔のお話を聞かせて下さいませんか。

**亀崎** 私は台湾にいましたが、パルプ会社でボイラー舎とか色々のところにシロアリがついて困ってございました。また、建築材料のテックスに



シロアリがついて困るから、シロアリのつかないテックスを作ってくれという注文です。その時に中村というのがおりまして、シロアリを探す仕事をしていましたが、その人の知恵を借りてシロアリのつかない防虫テックスという

のを考え出しました。テックスをつくるときに亜硫酸を入れてつくるのです。亜硫酸を入れたテックスと入れないテックスとを地下に埋めて1週間ほどしますと、亜硫酸を入れた奴には全然シロアリが来ないのですが、入れないのはぼろぼろになってしまいました。それからシロアリのつくのはどんなものか調べてみて判ったのですが、木造家屋です。これは大変だということになりました。木造のほかはないんですよ。木造でやるとすぐ倒れてしまうんです。台風が非常に多いもんですから。その原因が皆シロアリなんです。中村が中村工業という会社をやっておりましたが、その頃から私は中村と知りあったのです。

終戦後、私は九州ですけれども、息子のことで台湾から東京に出て来ました。遊んでばかりもいられませんので、何かやろうか。シロアリの仕事はどうかと考えまして、東京都内をあちこち見に行っただすけれど、さっぱりこちらの様子が判らない。たまたま中村が上京して来まして、「亀崎さん、東京にシロアリおりますよ」「そうかね、それじゃあ」ということになって、2人で中村化学工業を始めました。昭和26、7年頃だったと思います。新聞社に頼んだら「白い絨緞、東京を襲う。」という記事を大きく出してくれました。これは多少反響がありまして、方々の会社から照会があったんです。それで、これは個人を一々訪ねていくのは大変だから、会社へ行こう。会社へ行けば、寮もあるし、社宅もあるから、会社の方が率がよいと考えまして、一流会社に目ぼしをつけまして、毎日のように3軒4軒と回ったんです。また、その関係者の紹介状をもらいましてほかの会社に行く。紹介状をもらって行くと、ほっておけないので、寿司などをご馳走してくれたもんです。だいたい営繕課で扱っていますから、営繕課長



が会ってくれます。それで、今までは「腐れだ」「腐れだ」といってしまして、3年か4年ごとにやってくる修理屋になおさせていたのですが、シロアリの駆除をやれば、半永久的に大丈夫なんだ。そう腐れがくるわけではないと説明しますと、もしシロアリがおれば、やろうというわけで、じゃあ見に行こうということになって課長を連れ出したり、その代わりの人を連れ出したりしては、シロアリの調査をやりました。一番先に私が調べてみるのは、門柱か塀の外です。家の中にもぐるのは大変で、時間もかかりますから。柱の下をめくると、必ず丸太の下にあります。それを見せて、「これがシロアリですよ。塀の柱が食われています。これで家が食われたら大変です。だから、すぐ駆除をやりなさい。」というようにして、さっさと話がまとまったですね。大日本製糖という会社に行きますと、その子会社が100軒近くもあるんです。日本通運という会社がありますね。これがまた子会社が多いのです。160何軒。それで仕事が増えたんです。個人を1軒1軒訪ねるのは大変ですから、一流会社を目当てにして、次から次に関係会社を歩いて仕事をとっておったんです。

**司会** 亀崎さんのところでは個人住宅の施工件数というのはほとんどなかったんですか。

**亀崎** 当時はほとんどなかったんです。

**司会** 世間ではどうですか。あったようですか。ほかの会社はどうでしたか。

**亀崎** 当時ほかにはウッドキーパーの黒黒さんとかの会社など。私を入れて3人くらいでした。そのほかのところは南京虫屋です。

**司会** 南京虫屋、それは今でいうペストコントロールというわけですね。

**亀崎** そうです。当時それぞれ専門があって、三共消毒は南京虫、イカリ消毒はネズミです。あの人は南京虫屋さん、あの人はネズミ屋さん、あの人はシロアリ屋さんと名前をつけられたものです。3人寄ると、三羽ガラスなんて呼ばれたんです。

**司会** 会社関係といえば、前田さんも会社関係が多かったんですね。その頃個人の住宅は前田さんの地方ではどうなっていたんですか。

**前田** 古い寺とか、神社とか、学校とか、いろいろ行きました。個人住宅もちょいちょいありましたが。会社方面は、自分がおった会社の関係もあり、会社の偉い人の鞆持ちをしておりましたもんで、関係会社に行きますと、馴染の人がおったもんですから、やはり会社関係が主です。

**司会** それでは主力を会社や会社の工場、社宅においておられたわけですね。一般の個人の依頼者を獲得するということはかなり困難だったんですね。

**前田** そりゃなかなかないです。最初は全然ありませんでした。台風も何もないのにばたんとか家が倒れたというようなことやシロアリの大きな巢があったというようなことはございましたが、個人住宅では大した金にならないのです。国民学校一いまの小学校一から中学校、高等学校、大学などいっせいにやったもんですが、今の金額にいたしますと、大変なもんですよ。

**司会** それでは個人住宅は、その当時まったく<sup>ほうてき</sup>放擲されていたんですね。

**前田** あまり個人からは申し込みがありませんですからね。

**司会** 戦後になってシロアリが非常に増えたといわれていますけれども、過去と比較して、ほんとうに増えたのでしょうか。その当時と今とを比べてみた時、どう感じられますか。

**前田** 依頼件数が急激に膨大になったのは事実で、そりゃあ今昔物語ですね。桑野さんとよく話をするのですが、これはまったくしろあり対策協会のお蔭だと思います。

**司会** 依頼件数ではなく、シロアリ自体が増えたか、増えていないのか。個人住宅のシロアリ被害が昔から今程度あったのかどうか。協会がシロアリの知識の啓蒙に努め、PRしたことも事実ですが、一方建築費も高騰していますから、住まいを大切にするというような観念からも防除の依頼が多くなっているとも思えるんです。それから最近の傾向として、駆除から予防へ移行していることです。

以前はシロアリが発生しなければ、防除などやらなかったもんですが、今日では予防工事が増えて来ました。これは協会の貢献として最も主張し



たいところですが。



**神山 森先生**、お1人ずつ生業をお始めになった動機を聞きますと、色々と話が出てくると思いますが、あまり年代にこだわらない方が話がうまく出るのではないのでしょうか。

**司会** それでは戦前の話は一応ピリオッドを打とうと思いますが、もう一つお聞きしておきたいことは、地方による特色として最も被害の多い九州地方でも同じ傾向だったのでしょうか。中島さん、お父さんからそういうお話をお聞きになりましたか。

**中島** 確かに個人住宅は少のうございました。でもあの当時は家も少のうございましたから。最近では家の数もものすごく増えまして、それだけでも一応活動範囲が広まったことになります。けれども、やっぱりあの当時は確かに個人の依頼仕事で出かけて行くことはまったくありませんでした。前田さんや亀崎さんのおっしゃったように、会社とか、銀行とか、それから市町村の公共建物をねらって盛んにPRしたもんです。この仕事も昭和10年頃からようやく軌道に乗りました。

**司会** そうすると、結局戦前は大きな会社の工場とか社宅とか、あるいは学校、役場のような市町村の公共建物などが主な対象で、個人住宅はほとんどなかったという結論になりますが、これで戦前を終らせていただきましてよろしゅうございますか。それとも何かまだご意見がございませうか。



**小嶺** 沖縄の方のことですが、戦前は沖縄には業者はいなかったんです。それで各個人で自衛手段がとられていました。いわゆる生活の知恵です。建築材料を全部溝川や海水に漬けたんです。僕らはその上でよく遊んだもんです、子供の頃に。2年から3年、長いものは3年、普通は2か年くらいです。早くても1年くらいで、

平均して2か年くらい漬けました。柱から根太、大引、その他全部漬けまして、その材料で家を造るといったようなことをやっておりました。それからマツの木、なるべく若マツで油気の少ない木を切ってきて、その丸太を家の周囲に埋めるんです。それから2か月か、3か月くらいの間に掘り出してきて、いっぱい集まっているシロアリに石油をかけたり、焼いたりして駆除したと思いますが、これは今でいう、誘殺駆除ということになります。土壌から家に侵入しないような方法をとっていたんです。建築材料を塩分のある海水に漬けて、その材料で家を造りますことにつきましては、本協会の沖縄大会の時に屋我先生が発表されたんですけれども、海水や溝川に材料を漬けることが学術的にすばらしい効果のあることを証明され、それで博士号をとられたんです。それから見ますと、沖縄の年寄りの方々も博士号に匹敵することを色々と生活の知恵でやってきたわけなんです。私個人の家のことですが、建ってから45年間一今度の戦争の時昭和20年3月の空襲で焼けちゃったんですが一その間シロアリは1匹もつかなかったということです。これから逆算すると、ちょうど明治40年頃にすでに海水に漬けてから家を造っていたことになります。戦後はすでにこの家を2軒造りなおしたんです。シロアリにつかれて。シロアリが増えたということも事実なんです。年寄りの生活の知恵でやったことを半ば小馬鹿にして何もしなかったんです。それで戦後30年間に2回も家を造りなおしたんです。シロアリが増えたせいもありますけれども、古人のやったような対策が何もされてなかったということです。戦前沖縄には生活の知恵から出た自衛手段しかなかったわけです。鹿児島から業者が2、3ちよくと契約した特定の建物だけを調べに来るケースはありましたが、戦前の沖縄はこういった事情であります。

**司会** 沖縄に業者ができたのは戦後ですね。特別大きな工場とか社宅がなかったでしょうから、ほとんどシロアリ対策ということが行われなかったんですね。個人住宅がたまたまシロアリにやられても鹿児島県から業者が来て修理して行ったという状態だったんですね。

**会長** 建材は沖縄では自給できなかったでしょうから、九州とくに鹿児島から送られていたと思われま。それが途中で船が難破したり、何かの事故で木材が海水に漬かったりし、これを加工して家を建てたところが、それにはシロアリがつかなかったことなどから海水処理が生れたのではないのでしょうか。

**小嶺** そういうことがあるかも知れないですが、海水だけではないんです。普通は溝川みたいなところに漬けるんです。農業をやった経験のある方ならよく分かると思いますが、若いマツはシロアリがつきやすいし、腐りも早いので、材料としては何の役にも立たないのですが、溝川のそばの土手なんか崩れたときに堰止めに立てておきますと、2、3年たったものはかちかちになっています。これをとり出して包丁の柄に使用すると絶対に腐らないのです。包丁の柄は濡れた手でつかまえるものだから、腐れが早いのですが、この材料でつくれば、非常に長保ちします。鎌の柄も細いので腐れが早いのですが、田んぼのなかに打ち込んである杭なんかをとり出してきてつくと、非常に丈夫です。そういったようなことから、家の材料もそうすればよいんじゃないかという知恵が出たんだと思います。

**司会** 私は大阪で材木屋の倅だったんですが、溝川のなかに大きな木材が漬けられていたのを覚えてます。水中に木材を漬けることは、木材保存の一つの方法ですが、この材料を使えば、家が虫に食われないという話を聞いた記憶はありません。もっともラワン材を長く水に漬けておくと、でんぶんが減量してヒラタキクイムシにやられることが少ないという話があります。また、シロアリは塩を嫌いますから、木材を海水に長く漬けておけば、塩分を含んで防蟻効果をもつようになることは領けま。古い話ですが、貪欲なシロアリ業者がある家にシロアリ駆除に行くと、塩を撒いたという伝説があります。そうすると、その家にはシロアリが来なくなるから、駆除したと同じことになり、感謝された上に逃げ出したシロアリが隣近所の家にはいつて行くから、よくやってくれたシロアリ屋さんという噂で、またそちらからも依頼がきて商売が大いに繁盛するという悪辣な商

法がやられていたということを知ったことがありますが、確かにシロアリは塩を嫌います。しかし、塩の上に蟻道をつけて塩に触れないようにその上を歩いて行くようになりますから、絶対にシロアリが防げるというものではありませんが、ともかくシロアリが塩を嫌うことは事実です。

米本さんはお年が83歳とお聞きしましたが、昔からシロアリの方をやっておられませんか、古い話がお耳にはいつているんじゃないのでしょうか。

**米本** はいっておりますね。はいっておりますけれども、私のことを申しますと、私は和歌山に長いことおりましたが、和歌山の紡績の会社です。衛生試験場の教室にシロアリがついて九州から業者を動員してやったことがあります。その時これは面白いなと思ひまして、それから私は病みつきになったのです。早速岐阜の名和研究所に少しはいつたわけなんです。ここではクレオソートに硫酸合剤を混合したものをやっておっらしいです。私は帰ってから自分で色々こしらえたんです。

**司会** それが秘薬ですね。

**米本** 九州の業者が持参した薬を分析して初めてこれが亜硫酸だということが判ったんです。

**司会** 秘薬がばれちゃったのですね。

**神山** それはいつ頃の話なんですか。年代を入れていただくと、よく判るんですが、いつ頃研究をお始めになったんですか。

**米本** 研究は、私は戦争前ですけども、和歌山におったんは昭和7年、その時分の話です。

**司会** 森脇さんはシロアリの方をお始めになったのは、ずっと後だと聞いておりますが、あなたもご年輩ですから、ご経験や直接お聞きになったり、噂を耳にされたりしたことがおありになるんじゃないでしょうか。



**森脇** 私がこの世界にはいつりましたのは昭和41年なんです。もとは三菱造船におりまして、戦前は上海の造船所に、戦後こちらに帰ってきました。当時企業の分離分封が行われる事態になりました。三菱造船も長崎、神戸、横浜



に分かれておりましたが、これらの施設がかなりシロアリに犯されておるんじゃないだろうかということから、当時早稲田大学に十代田博士がおられました。その十代田博士の教室に全国的なシロアリの被害調査を依頼したわけですね。それで全国の実情が判りました。三菱としてはこれを適当に防除しなければいかんということになったんです。その当時原田さんという方がおられまして、会社を退職された後、長崎造船所の面倒をみるのが、広島の方には誰もいないから、お前引きうけんかということになりました。東京にはウッドキーパーという会社がありまして、その社長が肘黒さんという方で、これは長崎県人ですが、東京に出て農林省にはいって林業をやっている頃にシロアリ防除ということを考え、研究し、技術を身につけたという話ですが、その会社はウッドキーパーという薬剤をもっておりました。今のウッドキーパーとは組成が違うと思いますが、これでやっておられました。そうしたところへ米国からPCPが導入されてまいりました。これは芝本先生にも関係があると思うんですが、PCPは腐朽菌に特効がありますので、これに殺虫剤を混入したらよいということになって昔の薬剤から今の薬剤の方向に転換するきっかけになったんです。昔の亜硫酸のはいった薬剤は人体に非常に危険なんです、できるだけ早く切り変えた方がよいということになって新しい薬剤を使い始めたんです。

**司会** 今お話の早稲田大学の十代田先生というのは、今ここにいらっしゃいます神山先生の先生です。先生の調査云々という話がありましたが、神山先生、実際はあなたが中心になっておやりになったんじゃないですか。

**神山** それは昭和27年です。

**司会** 神山先生が実際は中心になってやられたんでしょう。ですから、そのことについてちょっとお話しただければ幸ですが。

**神山** 十代田先生は腐朽菌の方と両方やっておられたんです。当時先生は防腐の方の研究はほとんどでき上がっていたんですが、僕の調査でシロアリがついていたことから木造建築物の耐久性ということは、シロアリ問題に力を入れなければならないということになり、シロアリ調査を引きう

けられるようになったんです。

確か2月か3月頃ですが、社宅の柱がいたんでいたり、汚れているもんですから、化粧板をはりつけていたんですが、それをはがしましたら白い虫が動いているんです。あんな寒い気温の低いときでも、確かにイエシロアリだと思いますが、実際に活動しているんです、板と古い柱の隙間に。

**司会** それは長崎の話ですか。

**神山** 長崎の話です。長崎と広島造船所の社宅を調査させていただいたんです。

**司会** 3月の時分にもあの辺では活動しておりますね。

**神山** それで恐い虫だということが判ったんです。

**司会** 波多野さんは何かこれに関連したお話はありませんか。



**波多野** 私は戦後派なんです。私は台湾の総督府にいましたが、私のおりました官舎で、ある日足場がおかしいというので、ほじってみましたら、白い虫がおりました。そこでシロアリというのを初めて知ったわけです。確か昭

和32年と思いますが、私の家の改築をやったんです。その時古い材料に同じような白い虫がついておりました。もちろん、これはヤマトシロアリですが。何とかしてこれを駆除しなければいかんということで、これが一つのきっかけとなりました。方々で色々と薬を探したんです。いずれにしても砒素が一番いいじゃないかという話から、砒素に少しでんぶんを混ぜたり、炭酸を混ぜたりして、電動ドリルがありませんから、手で処理しまして、自分の家の防除から始めたんです。防除といっても予防の方が主になりますけれども、新築の。それがきっかけになって、ぼつぼつとやっておりました。その時アンドリウスという会社がございまして、そこで開発されたオスモーサーという薬がシロアリによく効くというので、その薬を使って現在にいたっておるわけなんです。一つの企業としては比較的若い歴史しかもっておりませ



るので、大変恥ずかしいしいでございませう。

**司会** 薬剤には種々秘薬があつてご発言しにくいことと思ひますが、施工法というものは各時代、各地方により色々と特色もあり、とくに戦前と戦後、それぞれ今昔の差が非常に大きいと思ひます。桑野さん一つそういうことについてご発言下さいませうか。



**桑野** 施工法では九大の応用化学を出た城島(?)さんという方が昭和元年(?)かに特許をとつてゐるのですが、それは薬ではなくて施工法です。木材に孔をあけて薬を入れ、木栓をつけるというやり方が特許なんです。その時にたしか早稲田の経済を出た大坪(?)さんという人が従兄弟同士なんで、2人で一緒に始められたんですが、途中で仲たがひして別にやられることになつたんです。ところが特許になつてゐるので、木栓を打つことができず、しょうがないんで、孔をあけたところに板をはつて釘でとめておられたんです。今も残つてゐる場所が沢山ございませう。

**司会** 孔をあけて木栓をするということがよいのかどうか。どうお思ひになりますか。

**桑野** それはいいんです。木栓をしなれば、強い光をうけてシロアリがその場所を通らなくなるからいけませう。

**司会** 吉野さんの話によりますと、孔をあけると、シロアリが集まつてくる。すなわち、誘引する効果があるというのです。ちょっと問題がありますが、ともかく両方の説をあわせると、孔をあけると、シロアリが集まつてくる効果があり、それにすぐ木栓をしておかないと、光がはいるので、逃げてしまふということになりますね。

**桑野** 集まつてくるのは兵蟻なんです。修繕するために孔をあけた時に顔を出すのは全部兵蟻ばかりで、職蟻は出て来ませう。ともかく、孔をあけて、そこにぱつと薬を入れて、すぐ木栓をすれば、職蟻が動き出します。たとえば、パリスグリーンを入れますと、おそらく緑色になつてゐるでしょう。やがて緑色の薬剤が蟻道や巣に万遍なく

づつと広がるということは、シロアリが運んだことを証明するもんだと、そんな風に書いてあります。それともう一つ本に書いてあるのは、火事になつた場合、亜硫酸を使ってあつて、有毒ガスの砒化水素を生じて、ごく短時間では一酸化炭素よりむしろ問題はないということなんです。問題になるのは、天井裏に処理した亜硫酸が落ちてくることです。シロアリ駆除に亜硫酸を使う効果は、殺虫効力が非常に秀れていることと値段が安いことなんです、安全だとはどこにも書いてありません。使い方によっては比較的安かたという注釈をつけてはおりますが。

**司会** 私は今日司会の役で、皆さんからお話を聞かせていただき、私からは発言しないことにしておりますが、実際天井裏で処理することは極めて危険です。

**前田** 先生、天井裏の木材のなかに入れるのであつて、天井に撒いたり、その他危険な処理はいさゝやらないんです。

**司会** 今日は発言しないことにしておりますが、私が只今ご注意申しましたのは、どのような処理法をやりましても、食つたシロアリが体にもつけてきて、それが天井の隙間から落ちてきたり、どんなに気をつけて木材のなかきちんと処理しましても、長い間にはいつの間にか少しづつダスト(ごみ)になつて落ちてくるんです。下に人が住んでおりますから、これが食物のなかにはいつてくる危険性が非常に大きいということなんです。食物のなかにはいらなくとも畳の上に落ちたものを子供がなめるおそれもあります。私としては衛生上の立場から絶対に使用しないようにしていただきたいんです。

**桑野** 今の接触剤は虫を散らすんです。薬を入れると、シロアリの散らしてしまつて困るんです。それに臭いでしょう。それで薬を入れると、危険を感じて逃げてしまひます。それにシロアリは1秒間に5cmくらい歩きますから、10分も20分も孔をあける作業をしていると、全部逃げてしまひます。シロアリのいないところに薬をさすことになります。だから今の薬剤ではどうしても巣を探して先に巣を処理しなければまづいんです。

**司会** 今の薬は溶媒の臭が強いので、そのため

にシロアリがいるところに撒けば、皆逃げて行くのです。目の前でやってみれば判りますが、慌てて逃げます。しかし、これは溶媒が揮散してしまえば、慌てて逃げるようなことはありません。接触剤ですから、シロアリが接触して死んでいきます。亜砒酸は接触剤ではなく、毒剤ですから、麻痺作用、致死作用が遅いのです。食べた場所で死なないで、巣に帰ってから死にます。シロアリは共食いする習性がありますので、死んだ奴を他の奴が食べてまた死んで行きます。また亜砒酸を触角や体にくっつけて巣に戻る奴もいますが、シロアリは互いに舐め合う性質がありますので、付着している亜砒酸を舐めて死んでいく奴もあります。こうして、次々と死んでいく個体が増え、亜砒酸は巣全体に拡がっていくのです。このような作用はまことに特色ある効果で、注目すべき作用ですが、亜砒酸は猛毒だから、使用してはいけないというのです。巣に持って帰ってから死に、巣のなかにいる仲間にも次々と伝播し、養っている女王や王のような生殖虫まで殺すという作用をもつ薬剤は多くの学者が等しく狙っているものですが、亜砒酸は猛毒なので、これに代わる人間に安全な薬剤で、このような作用のあるものを探求しようと思っているんです。

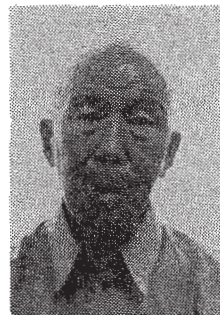
**桑野** 森先生、キチリメンダケの毒素を研究なさったんでしょう。

**司会** あれは米国のウイソコンシン大学のアレソ達が研究したものですが、毒素ではなく、ヤマトシロアリの誘引物質です。イエシロアリはまったく駄目です。ヤマトシロアリはキチリメンダケのような腐朽菌の産生物質に誘引されますので、そのために腐朽と蟻害が同じ場所に重なって発生することが多いんです。

**亀崎** 台湾で研究した時の話ですが、マツ・スギ・ヒノキそれから台湾の樟脳の木、これらを尺角に切って土の中に入れておくんです。1週間ほどして開けてみますと、マツはぼろぼろになっています。シロアリの好む順序はマツ>スギ>ヒノキ>樟脳の木で、樟脳の木は全然食わないんです。マツを好むというのは樹脂(マツヤニ)を好むと思われるので、樹脂を置いておけば、シロアリを呼ぶはずだと考えたんです。樹脂は若マツが

多いので、それから樹脂をとって、そのマツヤニを粉末にして、これに亜砒酸を混ぜたんです。シロアリが寄ってくるので、シロアリ集殺法と名前をつけたんです。

**司会** 台湾の樟脳の木というのはクスの系統の木であると思いますが。これはご承知のように、樟脳自体は防虫剤に使用されるくらいで、防虫効果はありますが、木のなかにあるときはあまり防虫効果はないはずで、イエシロアリの巣がクスの根の下にあることが少なくありません。これは木のなかにある時は純粹の樟脳ではなく、極めて不純物の形態になっていまして、その不純物がイエシロアリをむしろ誘引する作用があるので、クスの根の下に営巣するのであろうと考えられております。



**米本** 人間に対する亜砒酸の致死量は、0.06gで、小数点以下二つの位でいっぺんに死んでしまいます。致死量はおおよそ体重に比例しますので、体重からしたら、シロアリはごく薄くても死にます。シロアリの一番の好物は水で

す。だからシロアリの致死量だけを水に溶解させたら、シロアリを殺すことができます。亜砒酸をごく少量水に溶かして使用したらよいのであって、粉末などは全然いりません。

**司会** また薬の話に戻りましたが、たとえ、水に溶かしても、地下水に混入する危険があります。今日は昔亜砒酸が使われていた時代のご年輩の方が多いので、昔語りとして亜砒酸の効用のことを聞かされるんじゃないかと思っていたんです。現在ほとんどが使用禁止になっております有機塩素剤—DDTやBHCのことを考えてみて下さい。地上散布だけでなく、航空機によって空からの散布も行われるようになり、この調子でいくと、地球上に塩素剤が蓄積して、いつの時代にか人間が滅亡して地球上に死の世界が出現するであろうという物語りの出版物がありますが、日本のような狭い島国で田畑だけでなく、ヘリコプターで山林にまで散布しだしたのですから、これは大変な公害問題なので、使用禁止は当然の措置で



す。地下水に混入しても容易に分解しない塩素剤は、植物に吸収され、これを食った動物の体内にはいり、やがて野菜や卵・牛乳・肉などの食物に含まれて究極は人間の体内に蓄積することになります。このために恐しい結果になるというんですが、亜硫酸にいたっては、塩素剤とは比較にもならないほどの毒物ですから、シロアリ駆除に昔使われたということは今となってはどうしようもありませんが、世間で誤解して現在でも使用しているとでも思われたら、これは大変なことになります。新聞で薬剤の公害が重大な社会問題としてとり上げられている時代ですから、新聞に間違っただけで報道されても大変な結果になるおそれがあります。国もほっておくわけにはいかないでしょう。実際に使用していないと主張しても、万一所持しているのが見つかったら、裏づけ証拠にされて、営業停止という事態も案ぜられます。依頼者の方もそんな毒物を使用しているなら、はなはだ危険だといふので、駆除をためらい、あるいは止めたりすることになり、依頼件数が激減するような事態も案ぜられます。そうして、しまいにはシロアリ業界の恐慌につらなる危険もあります。現在亜硫酸を使用している人は誰もいないと私は信じていますが、あまり亜硫酸の効用を述べられますと、世間の誤解を招くおそれがあります。今日ここにお集まり下さった皆さんは、シロアリ業界の代表的な長老の方々でございますから、世間の誤解を招かないように、慎重にご考慮下さって、後進のご指導を誤らないようお願い申し上げたいと存じます。

業界最長老の松平さんには本日来ていただけなかったんですが。前田さん、松平さんはどうしておられましようか。

前田 実は伊藤支部長さんも行かれたらしいんですが。私も奈良に用事があったもんで自宅を訪ねたんですが、お会いできなかったんです。ご無事の様ですが。

司会 私が聞きしておきたいのは、実は松平式という施工法です。特許をとっておられたんですが、どういう処理法であったのか、前田さん、ご存じでしょうか。

前田 黒板でもあったら、図を画くんですが。

樽の木の栓の長いような杭をマツの木でつくって、中をくり抜き、そのなかに亜硫酸を何かに混ぜたものを詰めて、床下のところどころに、あるいは巢のありそうなところに打ちこんでいるのを覚えています。

司会 私は松平さんにずいぶん方々へ案内してもらったことがあります。案内してもらったといっても、景色のよいところではなく、床下が主です。東大寺の床下だったと思いますが、床下の柱や床束に紙を巻いておられました。そうすると、紙の下までシロアリが出てきます。紙が巻いてないと、木材の表面には出てきません。紙を巻いておくと、その下まで出てきますから、一網打尽にとったり、そこに薬を入れておくと、駆除することができます。松平さんの長年の工夫が見うけられました。

ところで、シロアリは近年になって日本にはいつてきて広がったというのではなく、かなり古い昔に南方からはいつてきております。わが国の文献によりますと、約1,000年余り前、和名抄に飛蟻の漢名に波阿里と記したものがありますが、これはシロアリの羽アリなのか、普通のアリの羽アリなのか、ちょっとはつきりしませんが。シロアリの被害が明記されておりますのは、1690年（元禄3年）オランダ使節に随行して長崎にきたドイツ人ケンペルの書いた「日本誌」にシロアリのことを「ドオートオス」、すなわち「堂とおす」または「堂たおす」の意味として紹介しているのが残っています。九州の一部では今でもシロアリのことを「堂倒虫」と呼んでいるところがあります。小野蘭山の本草綱目啓蒙には当時のシロアリが九州・四国・東海・北陸などに分布していると記してあります。このような文献から見ましてもかなり古い昔に日本にはいつていたことが判ります。今でもとくにシロアリの多い宮崎県や鹿児島県あたりに最初にはいつたのではないのでしょうか。したがって、この地方では昔からシロアリ対策が色々と工夫されていたと思いますが、どなたかご存じではありませんか。

中島 蟻返しとか柱の下の束石に溝を掘るとか、鯨の皮を敷くとか、私は見たことはありませんが、話をよく聞いておりました。



司会 銅板の蟻返しが文化財の場合に使われたようですが、別に銅板でなければならぬということはないんです。鉄なら、すぐ錆びてしましますけど、銅なら、容易に腐らないで長くもつところから銅板が使われたと思います。やや下向きにつけた方がシロアリが登りにくいように思われて、やや下向きにつけたものが多いんですが、山野さんの実験によりますと、やや下向きにすると、その間に土を詰めて登って行きやすくなりますので、水平に伸ばした方がよく、その先を垂直に折り曲げておくのが最も効果的であるとのこと。シロアリが上に登るといっても、表面が滑らかな金属や硝子の場合、急な傾斜面は肢がすべって登れないんです。もっとも、その表面が汚れたり、錆びたり、塵がついたりすると登りますが。このようなことをよく考慮に入れて蟻返しの利用法を考えれば、なかなか効果があります。

柱や束の下の束石に溝を掘って水や油を入れておく防蟻法も有効で、文化財などにも時々見られますが、多くは溝のなかに何もはっていないのです。これでは何の役にも立ちません。水を入れてその上に油を流しておくのがよいんですが、せめて水だけでも入れておいてほしいと思います。シロアリは水の中を泳ぐことはできませんから。昔は生活の知恵から出たことと思いますが、今日では建築構造上の防蟻対策ということで色々の工夫が行われています。

建築構造上の防蟻対策の例としましては、すけ土台や基礎自体を高くしたり、換気孔の問題がございします。すけ土台というのは、基礎のコンクリートと土台の木材の間が最も蟻害をうけやすいので、この間にねこ（まくら）を入れてすかしておく工法です。この小豆島の近くに直島という島がございしますが、三菱金属工業がここで銅の精錬をやっておりましたために鉱毒で島に生えていたマツが全部枯れてしまい、その跡にヤシャブシという灌木を植えています。マツが枯れてもシロアリは平気で現在そのヤシャブシの下に営巣しています。この会社の社宅が大変な蟻害をこうむったのです、イエシロアリですが。それで会社では徹底したシロアリ対策をやらねばならないということになって、巨額の費用を投じて社宅の建物全体を

吊り上げて、すけ土台に改修してしまいました。これは非常に効果があったようです。また、この会社ではシロアリ処理部隊というのが10名(?)くらいで編成されておりまして、シロアリが出たという情報がいりますと、ただちに出動命令が出て処理してしまうというような見事な体制ができています。神山先生、直島に行かれて、その後の状態を見てこられたんではないでしょうか。

神山 私は調査だけで、後の話は何も知らないんです。調査の報告書は出しましたが、それからどういう風にやったかということは全然知りません。

司会 基礎自体を高くすることも効果的です。一般に昔の農家商家の床下は低いですが、神社仏閣では比較的高くて通風をよくし、床下の乾燥をはかっています。コンクリート基礎をどれくらい高くしたら、シロアリが登らないかという実験では、少なくともイエシロアリでは90cm以上、ヤマトシロアリでは60cm以上が必要であるという成績があります。宮崎県はシロアリの本場ですが、近代的な建物を見ると、意外に基礎が低いので驚きます。建築基準法第22条では、床の高さが45cm以上となっていますが、高い方がよろしいです。

換気孔にしましても床下の通風をよくするために5m以下の間隔で、300cm<sup>2</sup>以上の換気孔を設けることが同基準法でも定められていますが、これもまたなるべく大きく、できれば500cm<sup>2</sup>以上、かつできるだけ数多く設けることがよいです。

中島 今の建築では便所・風呂場・炊事場辺には換気孔が開けられてないですね。水を使っているも湿気の多いところなのに、これではまったく通風がありません。よく基礎を高く上げています。炊事場の向こう側のコンクリートを高く、腰窓まで上げ、風呂場の周囲もコンクリートを高く上げます。便所の方も水洗便所になって、ほとんどつながっているものですから、相当長い距離換気孔ができないところがございます。

神山 昔は水洗便所でなく、かめだったもんで臭が散りますから、どうしてもおおっておかないといけなかったんです。この習慣が水洗になっても残っているんです。水洗の場合は関係ないんで、換気孔が開けられるんですが。ですから、浴

室周りの脱衣場なんかの床が落ちるなんていうのが少なくありません。

**司会** 布施先生がたまたまお見えになったようですが、何か一言お話し下さいませんか。

**布施** 私は薬剤関係の人間ですから、また薬剤の話になってしまいますが、森先生がさきほどおっしゃいましたように、亜硫酸の使用はまずいですよ。今日では効力が多少悪くても安全なものを使っていくという傾向でありますので、今でもシロアリ駆除に昔のような危険な亜硫酸を使っているのじゃないかという誤解をうけますと、大問題になるおそれがあります。その点とくに注意していただかないといけません。

**司会** まったく同感です。誤解を招かないように十分注意していただかないと、せっかくここまで軌道に乗ってきましたシロアリ対策が社会的に弾劾され、業界全体に重大な影響を及ぼし、皆さんの将来のご繁栄を阻むような事態もおこらないとはかぎりません。ですから、あまり亜硫酸の効用を口にされますと、誤解を招くおそれがありますので、くれぐれも慎重にお願いしたいということを繰り返してご注意申し上げます。

さて、話が再三薬のことに戻りましたが、今後どうしたらよろしいか。新しい薬の問題も含めてで結構でございますが、今や新しい施工法、新しいシロアリ対策が生れてきてよい時代になったと考えられます。いや、新しいシロアリ対策を産み出さねばならない時代になったと思います。これらの問題についてご意見がございせんか。

さきほど、今の薬はシロア리를散らしているというお話がございましたが、散らしているわけはありませんが、ある家でシロアリ駆除のために薬を撒いたら、翌年は隣りの家に発生し、さらにその翌年はまた別の隣家に発生したりして、シロアリ屋がシロア리를散らせているのではないかという誤解をうけたことがあります。薬剤を処理した場合、徹底して絶滅させないと、シロアリはやはり薬を嫌って逃げ出して行くことがありますから、このような誤解を招く結果になります。アメリカでは1軒の家にシロアリが発生しましたら、その周辺の家は同時に薬剤処理をしなくてはいけないということを法律で縛っている州があります

が、わが国のシロアリ対策もここまで徹底的にやりたいものです。

**小嶺** 最近天敵の利用法が世界的に研究されていますが。あるいはシロアリの体内にいる原生動物を殺す方法など、わずかな薬で、しかもあまり人間に害のない薬でもって、ぴしゃっと殺す方法はないものでしょうかね、先生。

**司会** 確かに体内の原生動物を殺しますと、シロアリは木材を食っても消化できずに下痢をして死んでいきます。欧米でも研究されていますが、なかなか難しいですね。それよりもシロアリの女王を不妊にする方法があります。昆虫の不妊剤というのはすでに市販されていますが、薬剤メーカーにこれは可能性があるから、やってみないかといくら勧めても、なかなかおつくりにならないのです。その理由を聞いてみますと、シロアリの女王を不妊にしてコロニーが衰微していくのを何年も待っているより殺虫剤で一挙に殺した方が早いというのです。日本人というのは性急ですから、わが国には向かないというのです。1日に何100個と産卵し続ける生殖力旺盛な女王を不妊にすることは、まことに痛快だと私は思うんですが。

今の薬はシロア리를散らせるという話がありましたが、散らせるということは、追っばらうことですから、これが忌避剤です。人体にあまり毒性の強くない忌避剤があればよいと思います。時々相談をうけることですが、ゴキブリ退治では台所や食堂だけに薬剤処理をするのだから、シロアリが風呂場から出たら、風呂場だけを処理したのではいけませんかと。私はこれは駄目です。そんなことをしたら、シロアリは風呂場から逃げて他の場所に移って行きます。シロアリの場合には床下全面処理、イエシロアリならば、さらに軸組・小屋組まで処理しなければなりませんとよく理解されるように説明しております。こんなわけで現在使用されている薬でもよろしいのですが、より安全な忌避剤が将来見つければよいと願っています。忌避剤を使うと、逃げ出した奴が隣りに行くから隣りが迷惑するという話もありますが、そこでもまた忌避剤を使えばよいのであって、隣近所全部処理すれば、シロアリは寄りつくところがなくなり、蟻害は自然に下火になると思うんですが。



忌避剤の反対の作用をするのが誘引剤です。さきほどちょっと出ましたが、ウィスコンシン大学のアレン博士が持ってきましたキチリメンダケの産生物質にヤマトシロアリ、その他数種のシロアリが強く誘引されます。イエシロアリには駄目ですが、わが国にはヤマトシロアリの被害件数が多いんですから、検討の価値があると思うんですが、実際はまったく利用されておりません。誘引法が考えられるというならば、家の周囲に段ボール箱やみかん箱をおいてはいけな<sup>い</sup>といわれていますが、むしろこんなものを予めおいておいて、時々集めてとったらよいじゃないかという議論が出てきます。確かにそうで、始終注意して見ている、集まったら、一網打尽にとっているなら1種の誘殺になりますが、たいていは長い間放置しておくから、繁殖の根源になり、ついに家に侵入されて被害をうける結果になってしまうのです。

イエシロアリの羽アリは走光性がありますから、光に集めてとることもできます。日本ではイネの害虫であるニカメイガに対する誘蛾灯の研究が私のおりました東京大学で行われ、立派な成果をあげていたことがあります。古い方はご存じだと思いますが、中国・四国・九州などで広い範囲にわたって点々と誘蛾灯がついている夜景は、まことに壮観なものでした。それが戦争に負けて米軍が進駐するようになって、向こうの連中があまり研究もしていないのに、益虫が死ぬから、かえって悪いというので禁止になってしまったのです。イエシロアリの有翅虫は420ミリミクロンの光に最も強く誘引されますから、市販の青色蛍光灯の利用が考えられます。

そのほか生物的防除、先ほどこれもちょっと話に出ましたが、天敵の利用法です。蚕の病原体である *Bacillus thuringiensis* のような微生物の利用も考えられます。残念ながら日本ではまだ研究されていませんが、前田さんは確か海外旅行で見てこられたと聞きましたが、海外の研究につきましては、機関誌しろありのNo.29(1977)に私が執筆しておりますから、これを見ていただきたいと思います。しかし、微生物の利用にも若干問題があります。以前日本ではネズミ退治に野鼠チフス菌が利用されていたことがありますが、これ

もまた人体に影響するというので、米軍によって禁止されました。確かに人間も下痢の原因になりますので、よくないことは事実です。

そのほか、昆虫寄生性のダニによってシロアリが全滅することがよくあります。1匹のシロアリに多いときは約70匹くらいのダニが寄生します。ダニは幼虫と成虫との中間の形態、環境の悪いときに抵抗性の強いヒポプスという形態をとることがありますが、これが多数寄生しますと、シロアリは活動できなくなって死んでいきます。しかし、ダニは人間のアレルギー性の喘息の抗原になるおそれがありますので、これもまたマस्पロすることには反対があるでしょう。

このような次第で、天敵の利用にも種々の問題がありますので、現在まだ実用化の域には達しておりませんが、何か新しいアイデアがありましたら、どんどん提供して下さい。今すぐこの席というわけにもまいらないでしょうから、後で新しいアイデアが浮んだら、ど<sup>ん</sup>ど<sup>ん</sup>ご報告願います。

さて話題をつぎに移しまして、当協会創立前と創立後今日にいたりますまでの時期を比較していただき、協会の使命がどの程度果たされていますのか、私ども執行部は全般にわたってとは申せませんが、ある一面ではかなり使命を果たしてきたと思っております。しかし、一般会員としての皆さんの側から観察されて、どうい<sup>う</sup>ふうにお感じになっていきますか、ご感想をお聞かせ下さいませんか。

前田 今先生がいわれたとお<sup>り</sup>、日本しろあり対策協会が創立されたことは、この業界にとってまことにありがたいことであると思っております。一般家庭に行って一々シロアリのことを説明しなくてもすみますので、大変商売がしやすくなりました。一般に世情を眺めてみますと、昔のシロアリ屋よりかなり社会的な地位が向上してまいりましたが、それでもまだシロアリ防除士といえ<sup>ば</sup>、何者であるのか、どんな資格であるのかよく理解されておりません。建築の方で一級建築士といえ<sup>ば</sup>、相当権威もあり、また世間からもかなりの信頼をうけておりますが、防除士のほうはまだそこまで信用されていないと思<sup>い</sup>ます。創立以来20年やってまいりまして多少は世間の信頼が得ら



れるようになりましたが、そこまで望むのはまだまだ贅沢なことだと思えます。しかし、ここで20年を記念としていっそう努力していきたいと存じます。今後の問題といたしましては、防除士が昔のままいっまでも床下をはいまわっているということは、薬剤の公害が社会問題となっている折から、世相にマッチしていないと思うんです。各方面でどんどん機械が利用されている時代ですから、シロアリ防除ももっと機械化できないものかと考えています。それについて協会本部の学者の方々ももう少し考えてもらいたいと希望します。

**司会** シロアリ防除法の改革、とくに機械化をご希望になっておられるということですが、まことにご尤もなご高説を拝聴いたしました。しかし、これは非常に重大な問題で、わが国だけでなく、世界的な大問題であると思えます。確かに防除士が床下にはいって連日長時間にわたって薬を撒くということは、健康管理の立場からいっても気づかわれます。私どももほっておけない問題だと思います。従業員の健康管理は、経営者である皆さんが直接おやりにならなければならない問題ですが、そのプリンスは協会できいろいろと討論し、改善の方向に進めていかねばならないと思えます。これは今後の課題として十分に留意させていただきます。

最後にお1人ずつ順番にご発言をお願いいたします。

**米本** 協会創立20年の効果は確かに出ていると思えます。たとえば、建築業者が家を建て売りする時にシロアリ防除済という証明書や防除の現場を写真に撮って売買契約書にちゃんとつけていかないと販売価格に影響するのです。それ程一般にシロアリ被害が心配されておりますが、今後はますますこのことを拡大してほしいと思えます。

**森脇** 私は現在の段階では、協会本部の方々に色々ご指導をうけまして、シロアリの研究なり、あるいは薬剤の研究なりをさせていただきたいのです。今後私どもがやらなければならない問題は、防除に対する方法をもう一段改良し、強化していかなければならないということです。現状のままでよいのかどうかということになるのです。この点私ども自身の研究も足りないんです

が。一般にもう少し防除の方法、その他についても新しい方向を見いだしていかなければならないと思えます。この問題はやはり世間一般のシロアリ事業に対する信頼の問題と関係します。実際に防除にたずさわっている従業員一同もまた、そういう防除方法の改善をもう少し考えて、一段と飛躍していかなければならないという時期に迫っておるのではないのでしょうか。こういう点について私どもも自身で勉強しますが、協会本部の方々にもご指導していただきたいと存じます。

**波多野** 私は協会に大変感謝いたしておりますけれども、協会の存在というものが次第に天下に浸透してきたとは認めますが、一般庶民の層にはまだ十分浸透していないだろうと思えます。これはもう一段とポスターの掲示などによって日本しろあり対策協会というものがあるのだと、そして、難関な試験をうけて合格し、資格をとった防除士がそれに所属しているということを大いにPRしていただきたいということが一つです。それからつぎは、ちょっと齟齬がりといわれるかも知れませんが、実は森脇さんと一緒に中国支部の理事なんですが、本部の正会員でありながら、支部の会員になってくれない者が2、3おります。本部の正会員という看板をあげて仕事をやるわけです。この点何とか協会本部の方で支部の会員になるようにご指示いただきたいんです。現在はだんだんと新しく会員になるためには、支部の推薦がいるようになってきておりますが、すでに本部の正会員になっていて支部の会員にならない者に対して何分のご指導をお願いしたいという希望もっております。

**司会** ここに事務局の常務理事がおられますから、座談会の主旨から若干はずれますが、一言ご事情をお話し下さい。



**香坂** この問題はかなり前から色々な席で述べてまいりました。それで私どもは入会の規定を改正いたしまして、支部の管轄下に在住の方が協会に入会を希望する場合は、必ず支部長または支所長の推薦状を添付してこなければ

ば、受付しないことにいたしました。ただこの規定改正以前に協会の会員になった者については、「あなたは支部にはいないから、本部会員も首切りします。」というのは、ちょっと行き過ぎになりますので、本部としましては、それらの人に対して、そちらから頂戴しましたリストによってぜひ支部にもご入会下さるようという通知を差し上げてあるはずで、それはそちらさんよりも関西支部の方でもっと問題になりましたので、現在のように規約改正をしたんです。もう一度出してほしいといわれるならば、あらためてリストを頂戴すれば、私どもはしかるべき手続きをいたします。どうぞリストを出して下さい。

**波多野** リストを出しますから、一つ大いにお願います。ありがとうございました。

**桑野** シロアリ屋は昔は先生と呼ばれていたのです。大坪(?)さんにしても、城島(?)さんにしても。ところが今では先生と呼ばれるシロアリ屋はあまりいません。せいぜいまあシロアリ屋さんと呼ばれるくらいです。先生と呼ばれるシロアリ屋の増えることを望みます。

**司会** それについて一緒にいわれ謂をお聞きしたいのはシロアリ研究所なんです。何々シロアリ研究所という名前がずいぶんあるんですが、何々先生と呼ばれたり、何々研究所という名前をつけたりした謂についてお話し下さいませんか。

**桑野** しろあり対策協会ができてから、業者が急に増えました。そのなかには悪い者もおります。値くずしをやるとか、いいかげんな仕事をやるとか、一軒一軒戸別訪問して注文をとるとか。お医者さんは人間の病気を治し、シロアリ屋は家の病気を治す。お医者さんは、一軒一軒戸別訪問して、お宅に病人がおりますかというようなことはやりません。ところがシロアリ屋はそれをやるのです、平気で。それは、協会ができてからそういう業者が非常に増えたということです。しかし、もちろん、これは協会の責任ではありませんけれども、事実なんです。そこで、これらの者を支部の会員とか、支所の会員に入れて、支部とか支所で教育しなければならぬと思います。外へ出しておけば教育はできませんから、全部会員として協会に入れておくのがよいと思います。つぎ

に協会ができてから、予防工事が非常に増えたと思います。県の、市の、建売住宅の、色々あります。シロアリ予防工事済のお墨付きの保証がないと、入居者が承知しないのです、シロアリ被害が心配だから。そういう方面から予防が非常に増えました。これはまことに結構なことだと思います。病気にかかる前に予防注射が必要です。家の場合も同じです。協会ができる前は予防などということはまったくありませんでした。駆除ばかりです。業者の数も少なかったんです。どこそこの学校にシロアリが出たから駆除してくれといわれると、福岡全県下で12、3人ですから、宣伝も何もやらなくとも、われわれの仕事だったんです。ところが近頃こんな仕事の話がでたら大変です。大変な取り合いです。4倍、5倍の競争になっています。業者の数はもう押えることはできません。そうかといって、協会の中でよい人はこの人この人ですよということは、はっきりいうわけには参りませんから、全部同じレベルにあると考えられ勝ちです。しかし、今かりに協会がなかった時に今に近いような業者の数があつたとしたら、とても成り立ちません。それだけの大きな数の業者が何とかやっていけるのも協会ができたお蔭であると思います。しかし、昔をふりかえてみますと、協会ができるまでは、われわれはだいたい1年100日で暮したんです。夏の暑いときに仕事して、冬はぶらんぶらん遊んでいて、それで何とか成り立っていたんです。

**司会** あなたが持って来られた古い書類によりますと、大昔の話ですが、170何円かの領収証で5銭の収入印紙が貼ってありましたのにはまったく驚いたものです。

**桑野** 呑気だったというか、1年中働かずに、相撲取りと一緒にです。1年を何日で暮らすという奴です。業者が少数だったから成り立ったんですが、今のような数だったら、まったくでたらめになってしまいます。昔みたいに尊敬されて先生といわれるようなシロアリ屋さんが増えることを望みます。

研究所というのは大正12年に九大の前に店を開いた人がありますが、これが研究所という名前をつけたはじめじゃないでしょうか。それから後に



シロアリ屋をやる者は、昔から研究所というから、皆が何々研究所という名をつけるようになったものと思います。習慣です。別に意味はないのです。多少は研究もやっていますが。



**久保田** シロアリ対策協会設立前と設立後で非常に変わってきた特色は、シロアリに関する広報活動が盛んになったこと、業者が急激に増えたこと、テレビ・ラジオ・新聞などがシロアリ問題を盛んにとりあげるようになってきた

ことです。その結果、一般大衆に対するシロアリに関する知識の啓蒙は結構なんです、それと同時に一般大衆がシロアリノイローゼになってきた現象が認められます。羽アリが出る頃になりますと、あちらからもこちらからも電話がかかってきて、羽アリが飛んできたから、ぜひ見に来てくれといわれます。その頃は忙しい時なんですけれど、ぜひにといって飛んでいって見てあげますと、その家からでなく、ほかから飛んできた奴なんです。これが多いんです。それでお宅にシロアリがついて出たのではなく、これは隣近所か付近の藪から飛んできた奴で、ご心配になることはありません。しかし、今お宅はシロアリの攻撃目標になっているということだけは、はっきり意識しておいて下さい。だから今予防工事をおやりになるということは非常に結構なことです、予防工事をするとしたら、およそこのくらいの費用がかかります。よくお考えになって下さいといって別れるんですが、多くはそれっきりになってしまっ、頼むといってくるのは、せいぜい2%あるかないかというところなんです。こんな次第で、シロアリの宣伝が非常にきいていることは確かですが、その反面いわゆるノイローゼになっているように思います。以前はそんなことがなかったんです。

**司会** それプラスになっているのか、マイナスになっているのか、どう解釈しておられますか。

**久保田** 私の場合はマイナスです。貴重な時間を非常につぶしてしまいますから。

**司会** 家に対してそれほど関心をもつようになったということは、大きなメリットだと私は思い

ます。以前は一般の人々が気がつかない間にシロアリに大切な家を食われていたということが実情だったんです。建築費高騰の折からでもあり、資源を大切にしなければならない時に、ノイローゼかも知れませんが、自分の城は自分で守るという意識で、自分で家の保存に注意するようになったということは、社会的にも大きな意義があると私は考えます。

**久保田** 私にはあまりメリットはありません。

**司会** 自分の利害に直接連ならないこともありましようが、また遠い目でみれば、連なることもあると思います。時には自分の利害を離れて、社会のために、1種の社会奉仕だとお考えになりませんか。人類の敵、シロアリを撲滅することは社会のためになることだという使命観をもっておやりになれませんか。自分は人類社会のためにこの仕事をやっているんだという強いプライドをもっていたらいいと思うんです。そういう信念があれば、マイナスではないのじゃないでしょうか。そうして、社会的信用が広まれば、必ずもっともっと報いられる時が来ると私は信じます。あまり近視眼的にならないで、大いに勇気を出して、一般大衆の相談に乗ってあげて下さい。ぜひ一つお願いします。

**久保田** いや、よく分かりました。

**司会** 世間にはいんちき業者がいたり、平気で値くずしをする悪質業者もいることは十分判っておりますが、周囲には目がございます。世間は決して盲ではございませぬ。ずるいことをして1回や2回甘い汁を吸うことがありましても、ごまかしで競争しなければ、損をするということはございませぬ。世間の目が見ております。真面目に誠意をつくして仕事をおやりになれば、皆さんの信用は次第に高まってまいります。ぜひ頑張ってくださいと思います。

会長がお帰りにならないければならない時間になりましたが、まだ何かご発言したいことがおありでしたら、今のうちをお願いします。

**小嶺** この協会ができましたお蔭で、北海道の話も聞ける。広島の話も、九州の話も聞けるというわけで、ずいぶん勉強になっております。ところで、かいつまんで要望をお話いたしますと、



対策協会の認定薬剤というのは、協会所属の業者の使用に限定していただきたいということです。それから森先生にお願いしたいことは、シロアリ探知機ですが。魚群探知機は300mまでは探知でき、魚の種類も見分けることができるそうですが、先生が発明された現在のシロアリ探知機の性能をさらに改良できないものでしょうか。

**司会** それはなかなか難しい問題です。魚は水の中にいますが、シロアリは木の中におり、シロアリの細胞も木の細胞も同じく生物の細胞ですから、非常に似ていますので、魚群探知機のように反応を目で見ることが困難なんです。現在のシロアリ探知機 Sonic Detector というのは、シロアリの活動する固体振動を電気振動に転換し、雑音を濾過し、よく聞こえるように増幅して耳で聞いているのです。この探知機の効果の一つはイエシロアリの巣の探知です。皆さんはその道のベテランですから、巣のありそうなところはよくご存じですが、それを確かめるために、巣のありそうな木の根の下とか、幹とか、あるいは家屋の壁のなかとか、風呂場のタイルやコンクリートや石の下などに探知棒を差し込んでさえもらえればよいんです。もし巣があれば、シロアリの大きな警戒音、敵が来たという警告を仲間に伝達している大きな警戒音が聞えます。一々土を掘って巣の存在を調べるには大変な手間と時間がかかりますが、これが省けます。探知機のもう一つの効用は、駆除依頼者にシロアリがこんなに大きな音を立てて活動していますと、その活動音を聞かせますと、あまりに大きい音なので、たいていの人はずきずきしてしまいます。そこで殺虫剤で処理して、数日後にもう一度聞かせますと、今度は活動音がまったく聞こえませんが、全滅したことを知り、施主はすっかり満足し、よくやってくれたと感謝することは確かです。このような使い方もあります。

ちょうどお話をしている途中でふと思い出したんですが、最近沖縄ではシロアリ業者が非常に増え、競争がひどくなったそうですが。

**小嶺** そうです。昭和29年私が仕事を始めた頃は2か所だったんです。それが只今協会々員と非会員を合計しますと約70社でございます。沖縄県

白蟻防除事業協同組合というのが防除士の資格をもっている者だけで組織してやっているものです。けれども無資格の人が……共同組合という名前を使って色々と仕事しているんです。あの手この手で宣伝しまして、それは大変な過当競争になっています。

**司会** 防除士の試験をみますと、毎年全国で400人、多い年は500人も受験しています。近年は400人前後が定常化してきました。これは止める人も相当いるのですが、新しくこの仕事にはいってくる人も相当多いということです。ところが試験がなかなか受からないということになりますと、そのうちに防除士が足りなくなるのではないかと思います。現在過当競争といわれますが、資格をもっている防除士の数は逆に減っていく傾向が見られるんです。しまいに足りなくなるんじゃないかと案じています。試験は全国一斉で公平に採点していて沖縄だけを辛くするということは絶対ありませんが、沖縄は今年防除士の試験合格者が1名もなかったんです。勉強不足じゃないでしょうか。

**小嶺** とにかく毎年のように注意しているんですが、防除士になるためには最低限度の試験だということで、この程度のことは知らないといかんといっております。しかし、見たり、聞いたりしてきただけで、シロアリのことを碌に知らないような人達が友達から本を借りてきて試験に来ているわけなんです。受からないのが当前で、かりに試験に合格しても、とてもやっていけるものではありません。合格点は何点くらいですか。

**司会** 一般的に申しまして、半分以上できるということ、だいたい60点が合格点というのが社会通念であると思いますが、防除士の試験で60点以上といたら、10人中1人とちょっとしかはいりません。全国的によくなかったんですが、まあ、それほど厳格にやっておりますよ。それで、若干まけて10人中2. 何人かになっております。試験が難しいというよりも現状は受ける人があまりに不勉強だと申し上げたいです。時間が足りないという話も聞きますが、以前は各科目10題ずつ出しておりましたのに今は5題です。半分になっておりますから、時間が足りないということはありません。

せん。こんな事情ですから、今後は防除士が急に増えるということではなく、むしろ漸次減っていくのではないかと実は案じているのです。日頃からよく勉強し、技術を身につけ、真に実力をつけるようにご指導していただきたいと存じます。

**桑野** 最後をお願いしたいのは、薬剤の認定の時に溶剤をもう少し吟味していただけないでしょうか。溶剤が悪いんじゃないかと思うんです。かぶれたり、皮がむけたり、臭がものすごく強かったりしますが。

**司会** 溶剤の多くはケロシンですから、そういうことはあまりないはずですが、もしそういうことがあるといたしますと、やはりはいっている薬自体に問題がありますが、人間の皮膚の細胞もシロアリや腐朽菌の細胞も同じような生物細胞ですから、これらを殺すような薬は人間の細胞に対しても多かれ少なかれ影響があるものと思っ、用心して手袋を使用していただきたいんです。実際に素手で作業していて、皮膚につくと、かぶれる薬剤もありますから、お慣れになると、だんだんルーズになりがちですが、手袋とマスクの着用を厳守していただくことをお願いします。

いつの間にか時間がたって12時も過ぎました。約2時間の予定で、11時30分に終わりたいと思っておりましたが、皆さんがあまりご熱心なので、時間の経過も忘れてしまいました。しかし、おっしゃりたいことをいわないでおられますと、昔から腹ふくる業とか申しますから、ご発言のない方は空腹でまことに申しわけない次第ですが、まだ何かご発言がございましたら、どうぞ。

**小嶺** 最後にお聞きしたいことは、大会で決議された事項である法制化問題はどうなっているのでしょうか。私は精神薄弱者の大会に行ったことがあります、その決議は全部1年間にどのように取り扱われたかということ翌年の大会で報告しているのを聞いたことがあります。ここでは1年間にわたって処理しているわけですが、しるあり対策協会も年間を通じてやって下さったことを翌年の大会で報告するというような方法をとっていただきたいと思っ。今一つ、シロアリの防除法は各地域で事情が違うでしょうから、各県で条例が1日も早くできるようにしていただきたい

と思っ。協会で作成しておられますモデル条例はどうなっておるのでしょうか。

**司会** モデル条例は協会本部で担当しておられる方々がその仕事を進めていますので、遠からずでき上がるはずですが。

法制化問題につきましては、機関誌しるありでも時々議論されておりますが、国の法律をつくるということは容易ではありません。また、その前に皆さんも、もっと、もっと、慎重に考えてみられる必要があるのではないのでしょうか。実現した場合のメリットなり、デメリットなりについて。たとえば、法制化の暁には国家試験を受けろという問題がおこるでしょう。そうすると、今までやってまいりました協会の防除士の資格というものはどうなってしまうのか。国家試験が始まったから、協会の資格は認められないので、皆さんに、もう一度勉強しなおして国家試験を受けて下さいとは私はどうてい申し上げられません。そうしても、相手があることですから、こちらの思うようにはまいりません。まして相手が国ともなれば、なかなか容易なことではありません。協会の試験も現在は、先ほど申しましたように、10人受けて1人か2人しか合格していません。それほど難しくなっております。すでに資格をとっておられます方々が今受けたとしましても、悪くすると、大半が合格点がとれないのではないのでしょうか。法制化は国家試験に連なるでありましようが、それでいいのかどうか、よくお考えいただきたいと思っ。つぎに、危険物取扱者、毒物劇物取扱責任者などの資格試験を受けて合格しなければ、営業が許可されないということは必ずおこります。また、ただ今のように公害問題がやかましい時代ですから、毒物劇物の取り扱いの資格だけではすまなくなるかも知れません。シロアリの防除処理は、人の住んでいる家屋に直接薬剤をばら撒くわけでありまから、薬剤の取り扱いだけでなく、処理した薬剤がその後どのように化学変化をおこし、有害な化学物質が生成されるとか、薬剤から発生する揮発性物質、この多くはシロアリを殺すほどの有毒なガスですが、環境衛生の立場からこれが人間に影響するのかどうかなどの化学的、医学的の知識を要求され、少なくとも管理

者にはもっと高度な試験が課せられるおそれがあります。さらに施設にいたしましても危険な石油系の薬剤でありますから、特別の貯蔵庫が必要条件になりますでしょう。場合によっては地下貯蔵庫でなければならないということになるかも知れません。このように、法制化すれば、当然種々の条件が次々と規定されてまいります。これではかえって自分で自分の体をがんじがらみに縛る結果になりはしないでしょうか。このような条件をすべて満足させねばならないということになりますと、生き残れるのは大手業者だけになりますでしょうが、それでもよいのかどうか、法制化のメリット、デメリットについて十分ご検討いただきたいんです。

私も法制化推進は原則として非常に賛成であり、1日も早く実現を期待したいんですが、またその反面、協会会員の皆さんのことを考えますと、いや、これは慎重に検討してみなければならぬ問題だと案じております。これを検討する委員会もできておりますが、皆さんもお帰りになりましたら、とくと考えていただきたいんです。私も皆さんの立場に立って考えてみます。後になってから、そんなことは知らなかったと申されても困ります。協会のままの方がよかったとって

も、1度踏み切ったら、後に戻すことはできません。それより今後協会をどのようにもっていった方がよいとか、色々と検討すべき問題があり、また、そういう時期にきていると思います。皆さん一緒になって考えてみようではありませんか。

前田 そりゃあ森先生がおっしゃることは私が一番よく知っております。私の考えでは、これから、その前にやらねばならないことが沢山あると思います。

司会 今日はありがとうございました。本日の座談会はこれで終らせていただこうと思います。長い間お疲れさまでございました。長時間にわたり今昔物語をお聞かせいただき、膨大な記録ができましたが、皆さんがお話下さったことを全部活字にいたしますのは、創立20年記念特集号のページの都合がございますので、とうてい無理かと思えます。最初に会長からもお断りいただきましたが、取捨は私ども編集委員にお委せいただきたいと存じます。また、速記の方々が努力してとられたと思えますが、出席者が多いことですから、発言者のお名前をとり違えているかも知れません。その点もどうかご了承いただきたいと思えます。どうかよろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。(拍手)



# し ろ あ り 総 目 次

1978 (No. 30~35)

No. 30・31 1978. 1月

「建築物の保存」特集号

巻頭言—社団法人日本しろあり対策協会の発展に寄せる	救仁郷 齊	( 1 )
建 築 物		
木造建築(在来工法・枠組壁工法)の構造と材料	鈴木 秀 三	( 3 )
鉄筋コンクリート造の工法と蟻害	原 田 有	(14)
補強コンクリートブロック造建築物, その構造と工法	石 神 武 男	(20)
プレハブ建築(種類・材料・工法)	田 辺 富 二	(23)
被 害		
全国の蟻害調査	前 岡 幹 夫	(27)
建築物の2大害虫, シロアリとヒラタキクイムシの生態ならびに被害	山 野 勝 次	(30)
建築物に被害をおよぼす菌類	西 本 孝 一	(38)
モルタル塗り防火構造の被害と問題点	森 本 博	(43)
文化財建造物の被害と文化財保護法	内 田 茂	(49)
特殊な構造における建造物の被害	元 木 貢	(53)
木造建物の被害の実態	前 田 保 永	(55)
鉄筋コンクリート造建物の被害の実態	友 清 重 美	(58)
補強コンクリートブロック造建物の被害の実態	内 田 実	(65)
対 策		
木造建築物の蟻害と腐朽の探知診断法	森 八 郎	(70)
アメリカにおける蟻害防止の考え方	柳 沢 清	(78)
アメリカにおける蟻害防除対策	尾 崎 精 一	(86)
わが国における木造建築物の保存法—主としてとられてきた対策	森 本 博	(99)
建物保存に対する法規的対策	大 橋 雄 二	(112)
見て驚くような被害例について	吉 野 利 夫	(116)
わが家のシロアリ被害と対策	町 田 和 江	(122)
協会で認定している薬剤	布 施 五 郎	(128)
防腐土台と防虫木材について	庄 司 隆 治	(131)

No. 32 1978. 2月

沖 縄 特 集 号

巻頭言—沖縄の建築物と白蟻対策	野 原 康 輝	( 1 )
琉球列島におけるシロアリの分布	池 原 貞 雄	( 3 )
沖縄における木材害虫	国 吉 清 保	( 9 )
沖縄産材の抗蟻性	屋 我 嗣 良	(13)
合板の耐蟻性に関する実験	山 野 勝 次	(25)
予報 新種クシモトシロアリ <i>Glyptotermes kushimensis</i> sp. nov.	森 八 郎	(34)
円高に思う	富 樫 勇	(35)
沖縄支部だより		(40)

No. 33 1978. 6月

巻 頭 言	坂 野 馨	( 1 )
-------	-------	-------

わが国におけるシロアリの北限調査	森 八郎・前田保永・児玉 勝・清水一雄・山根 坦	( 2 )
日本における木材防虫剤の現状と安全性について	豊 田 浩	( 8 )
協会の沿革とその使命	香 坂 正 二	(15)
仕様書講座〔IV〕	森 本 博	(18)
父島のシロアリ被害を見る	南 山 昭 二	(29)
私の白蟻考(前編)	森 永 太 郎	(38)
簡単に経済的で効果的な「ヒラタキクイムシの予防と駆除」	蓑 輪 和 英	(41)
海外文献の紹介	柳 沢 清	(49)
関西支部便り		(52)
沖縄支部便り		(53)
防除士選考制度について	香 坂 正 二	(55)
しろあり防除薬剤認定業務取扱規程の一部改正について		(57)
昭和53年度「しろあり防除施工士」資格検定試験成績表の講評		(58)
第21回通常総会開催報告		(67)

No.34 1978. 8月

巻頭言—文化財とシロアリ	森 八 郎	( 1 )
WPC合板とフェノール樹脂含浸合板の耐蟻性試験	山 野 勝 次	( 3 )
仕様書講座〔V〕	森 本 博	(15)
しろあり防除業者身分の法制化に関する所見	元 木 三喜男	(25)
木造建築物の防虫防腐駆除処理における穿孔処理法の改良について	池 田 彰 人	(28)
予防工事の実際を見ながら問題点を考える	尾 崎 精 一	(34)
RC造建築物のしろあり防除	桑 野 田 郎	(42)
保証書についての一考察	香 坂 正 二	(46)

No.35 1978. 10月

<巻頭言>	救仁郷 齊	( 1 )
<創立20年記念懸賞論文>		
不況下のしろあり防除処理業界		
業界のあり方についての提言	前 田 保 永	( 2 )
シロアリ業界の直面する諸問題を考える	尾 崎 精 一	( 5 )
<創立20年記念会員応募原稿>		
シロアリ防除施工賠償責任保険について	森 田 次 男	(10)
しろあり防除普及への提言	船 山 一 郎	(12)
しろあり問題についての提言	菅 原 陸 郎	(14)
茶碗一杯のシロアリ	宮 田 光 男	(16)
しろあり防除施工見聞記	中 林 収	(18)
ヤマトシロアリの群飛と気象	安 達 洋 二	(19)
田無市におけるシロアリの被害について	石 崎 裕	(21)
本州日本海沿岸のイエシロアリ分布調査	森 八 郎・児玉 勝・山根 坦	(25)
<創立20年記念座談会>		
しろあり防除の今昔		
日本しろあり対策協会創立20年を記念して		(27)
<協会のインホームেশョン>		(46)
しろあり防除薬剤・防蟻材料規定商品名一覧表		(48)

しろあり防除薬剤認定商品名一覧表

(昭和53. 10. 31現在)

用途別	商品名	認定 番号	仕様書による 薬剤種別等		主成分の組成	製 造 元	
			指定濃度	稀釈 剤		名 称	所 在 地
予防剤	アリコン	1003	原 液	—	PCP, クロルナフタレン γ-BHC	近畿白蟻株式会社	和歌山市雑賀屋町東ノ丁
〃	アリノン	1005	原 液	—	ペンタクロロフェニールラ ウレート, クロルデン	山宗化学株式会社	東京都中央区八丁堀 2-25-5
〃	アントキラー	1006	原 液	—	クロルナフタレン, γ-BH C, パラジクロルベンゼン, PCP	富士白蟻研究所	和歌山市東長町10-35
〃	ウッドキーパ ー	1007	原 液	—	PCP, DDT, γ-BH C	株式会社白蟻研 究所	東京都渋谷区渋谷 2-5-9
〃	ウッドリン O	1008	原 液	—	ディルドリン, ジニトロオ ルトクレゾール, パラニ トロフェノール, PCP	日本マレニッ ト株式会社	東京都千代田区丸ノ内 2-4-1
〃	ネオ・マレニ ット	1013	30 倍	水	JIS K-1550 第1種2 号製品	日本マレニッ ト株式会社	
〃	ポリデンソ ルトK33	1016	50 倍	水	JIS K-1554の2号製品 (固形分中の無水クロム酸 酸化銅, ヒ酸)	株式会社コシイ プレザービング	大阪市住之江区御崎 4-11-15
〃	ペンタグリー ンNY-O	1017	原 液	—	クロム酸カリウム, 五酸化 二ヒ素	山陽木材防腐 株式会社	千代田区神田須田町1-26 芝信神田ビル
〃	A.S.P	1019	30 倍	水	フッ化物, フェノール化 合物, 砒素化合物, クロム化 合物	児玉化学工業 株式会社	東京都港区赤坂7-9-3
〃	ターマイトン	1020	原 液	—	クロルデン, ビストリブチ ル錫オキサライド	前田白蟻研 究所	和歌山市小松原通り4-1
〃	アリシス	1021	原 液	—	クロルデン, ビストリブチ ル錫オキサライド, γ-BHC	東洋木材防腐 株式会社	大阪市南区末吉橋通4-26 関西心斎橋ビル
〃	サトコート	1025	原 液	—	γ-BHC, ディルドリン, トリブチル錫オキサライド	イサム塗料株式会社	大阪市福島区鷺洲上 2-15-24
〃	アリサニタ	1027	原 液	—	有機錫, ディルドリン, リ ンデン	日本油脂株式会社	東京都千代田区有楽町 1-10-1
〃	アリキラーヤ マト	1028	10 倍	水	リンデン, ディルドリン, アルドリン, PCP	東都防疫株式会社	東京都豊島区池袋本町 1-34-10
〃	ブチノックス	1037	原 液	—	ディルドリン, ビストリブ チル錫オキサライド	株式会社コシイ プレザービング	
〃	ネオアリシス	1039	原 液	—	モノジトリクロルナフタリ ン混合物, BHC, トリブ チル錫オキサライド, メチ ルナフタリン	東洋木材防腐 株式会社	
〃	ウッドリン	1040	10 倍	水	ディルドリン, 4,6-ジニ トロ-0-クレゾール, P-ニ トロフェノール	日本マレニッ ト株式会社	
〃	ウッドエース B	1041	原 液	—	クロルナフタリン, クロル デン, モノクロロオルソ フェニルフェノール	日本カーリッ ト株式会社	東京都千代田区丸の内 1-2-1
〃	アンタイザー W	1043	原 液	—	ディルドリン, ナフテン酸 銅	株式会社協立有 機工業研究所	東京都中央区銀座 7-12-5
〃	アリキラーダ ーク	1044	原 液	—	トリブチル錫オキサライド	吉富製薬株式会社	大阪市東区平野町3-35
〃	アリキラーク リヤー	1045	原 液	—	トリブチル錫オキサライド, クロルデン, 有機溶剤	〃	
〃	アリゾール	1047	原 液	—	アビエチルアミン・ペン タクロルフェネート, アル ドリン, キンロール, ソル ベッソ	大日本木材防 腐株式会社	名古屋市港区千鳥町 1-3-17
〃	ケミガード O	1048	原 液	—	クロルナフタリン, 有機錫 化合物, ナフテン酸金属塩	児玉化学工業 株式会社	
〃	アリゾールE	1049	10 倍	水	アビエチルアミン・ペン タクロルフェノール, クロ ルナフタリン, アルドリン, キンロール	大日本木材防 腐株式会社	



予防剤	ネオイワニット	1050	4	倍	水	クロム化合物 $K_2Cr_2O_7$ , 銅化合物 $CuSO_4 \cdot 5H_2O$ , 砒素化合物 $As_2O_5 \cdot 2H_2O$	岩崎産業(株)	鹿児島市東開町7
//	ドルトップ	1051	原	液	-	クロルデン, ビス(トリブチル錫)オキシサイド	日本農薬(株)	東京都中央区日本橋 1-2-5
//	特製ドルトップ	1052	原	液	-	クロルデン, クロルフェニルフェノール	//	
//	ケミロック	1053	10	倍	水	クロルデン, ナフテン酸金属塩	児玉化学工業(株)	
//	ケミロック-O	1054	原	液	-	クロルデン, クロルナフタリン	//	
//	エバーウッド油剤C-300	1055	原	液	-	クロルデン, 有機錫系防腐剤	神東塗料(株)	大阪市東淀川区小松北通 2-25
//	デッカミン510	1057	原	液	-	ペンタクロルフェノールデヒドロアビエチルアミン塩 オルソセカンダリーブチルN-メチルカーバメート	大日本インキ化学工業(株)	東京都中央区日本橋 3-7-20
//	アンタイザーLP	1058	2	倍	水	クレオソート油, トリクロルナフタリン, モノクロルオルソフェニルフェノール	(株)協立有機工業研究所	
//	ウッドリン20	1059	40	倍	水	ディルドリン, 4,6-ジニトロ-O-クレゾール, トリブチルスズオキシサイド	日本マレニット(株)	
//	サンブレザーO	1060	原	液	-	クロルデレ, ペンタクロルフェノールラウレートフェニトロチオン	山陽木材防腐(株)	
//	サンブレザー-W	1061	20	倍	水	クロルデン, TBT-O, フェニトロチオン	//	
//	エバーウッド-CB-300	1062	原	液	-	クロルデン, ナフテン酸亜鉛	神東塗料(株)	
//	パラギタン-O	1065	原	液	-	Na-PCP, ディルドリン	三共消毒商事(株)	東京都品川区東大井 5-24-24
//	ポリイワニット	1067	20	倍	水	ディルドリン, ビストリブチルスズオキシサイド, ディクスゾール201, キンロール	岩崎産業(株)	
//	アリハッケンO	1068	原	液	-	クロルデン, ビス-トリ-N-ブチルスズオキシサイド, ケロシン	大阪化成(株)	大阪市西淀川区中島 2-6-11
//	オスモグリン	1069	5	倍	水	有機錫, クロルデン	(株)アンドリュース商会	東京都港区芝大門 1-1-26
//	ブチノックスK-8	1070	原	液	-	クロルデン, 8-オキシキノール銅	(株)コシイプレザービング	
//	アリハッケンOT	1071	原	液	-	クロルデン, ビス-トリ-N-ブチルスズオキシサイド, ケロシン	大阪化成(株)	
//	ポリイワニット油剤	1072	原	液	-	クロルデン, 錫化合物	岩崎産業(株)	
//	ディクトラン油剤2	1073	原	液	-	1,2,4,5,6,7,8-オクタクロール3a4,77aテトラヒドロ-4,7-メタノインデン, ビストリブチルティンオキシサイド	大日本インキ化学工業(株)	
//	アントムエース	1074	原	液	-	クロルデン1.F-1000 香料灯油	丸和化学(株)	大阪市福島区海老江 5-2-7
//	アリノック油剤	1075	原	液	-	クロルデン, PCP	東洋化学薬品(株)	東京都中央区日本橋小伝馬町2-2
//	アリコロパーK	1076	原	液	-	クロルデン, ビス(トリブチル錫)オキシサイド	有恒薬品工業(株)	西宮市津門飯田町 2-123
//	ニッサンアリスナP	1077	原	液	-	クロルデン, ラウゾール(ペンタクロロフェニルラウレート)	日本油脂(株)	
//	トリデンTC-80	1078	原	液	-	クロルデン, トリブチルティンオキシサイド	松榮化学工業(株)	名古屋市熱田区六野町1番地
//	アリコロリン油剤2号	1079	原	液	-	PCPラウレート, クロルデン, ケロシン	(株)リスロン	東京都豊島区西池袋 1-3-5

予防剤	ドルサイド	1080	原液	—	クロルデン, ビス(トリブチル錫)オキサイド, モノクロロオルトフェニルフェノール	日本農業株式会社	
〃	アリダウン油剤	1081	原液	—	クロルデン, 有機亜鉛化合物(ナフテン酸)	松下電工株式会社 四日市工場	四日市市北新開50
〃	アリコロン油剤	1082	原液	—	クロルデン, 有機錫系防汚剤	尼崎油化株式会社	尼崎市三反田町2-7-35
〃	ポリイワニット	1083	10倍	水	クロルデン, ファンガミン	岩崎産業株式会社	
〃	ウッドクリーンO	1084	原液	—	クロルデン, テトラクロルエチルチオテトラヒドロフタルイミド, トリブチルスズオキサイド, テトラクロルイソフタロニトリル	日本マレニット株式会社	
〃	アンタイザーD-2	1085	10倍	水	ディルドリン, ペンタクロルフェノールラウレート	株式会社有機工業研究所	
〃	エバーウッド油剤CX-300	1086	原液	—	クロルデン, N-ニトロソーンクロヘキシル, ヒドロキシルアミンA <sub>2</sub> 塩	神東塗料株式会社	
〃	アリダウン油剤A	1088	原液	—	クロルデン, N-ニトロソシンクロヘキシルヒドロキシルアミンA <sub>2</sub> 塩	松下電工株式会社 四日市工場	
〃	アリホート油剤	1089	原液	—	クロルデン, TF-100, 香料	鷗園商事株式会社	東京都新宿区四谷1-20
〃	アリガード油剤	1090	原液	—	クロルデン, PCPラウレート	明治薬品工業株式会社	
〃	リクトールO	1091	原液	—	クロルデン, トリブチルスズオキサイド	ケミホルツ株式会社	京都府久世郡御山町 佐山新開地194-1
〃	エーデン-0	1092	原液	—	クロルデン, クエニトロチオントリブチル錫フタレート	東洋木材防汚株式会社	
〃	フマキラーアREDIS油剤	1093	原液	—	クロルデン, ナフテン酸亜鉛	フマキラー株式会社	東京都千代田区神田美倉町11
〃	ブチノックス-TC	1094	原液	—	クロルデン, TBTO	株式会社イプレザービング	
〃	パルトンPO	1095	原液	—	有機沃素, クロルデン	株式会社アンドリュウス商会	
〃	テルメスCO	1096	原液	—	クロルデン, ペンタークロロフェニールラウレート	イカリ消毒株式会社	東京都新宿区新宿 3-23-7
〃	アリアンチ	1097	原液	—	クロルデン, クロルナフタリン, キシラザン-BDD	三共株式会社	東京都中央区銀座 2-7-12
〃	ホームアンタイザーD	1098	10倍	水	クロルデン, ペンタクロルフェノールラウレート	株式会社有機工業研究所	
〃	ディクトラン油剤2-N	1099	原液	—	クロルデン, ラウレート, ナフテン, 酸亜鉛	大日本インキ化学工業株式会社	
〃	アリホートベル油剤	1100	原液	—	クロルデン, ベルサイダー灯油	明治薬品工業株式会社	東京都新宿区西早稲田 2-11-13
〃	アントムV	1101	原液	—	クロルデン, ベルサイダー香料, 灯油	丸和化学株式会社	
〃	サンケイアリサンO	1102	原液	—	クロルデン, ベルサイダー有機溶剤	琉球産経株式会社	沖縄県豊見城村字高安 586
〃	ダイクロ油剤	1103	原液	—	クロルデン, ケロシン, ベルサイダー	三丸製薬合資会社	仙台市中央3-3-3
〃	ゴールドクレスト	1104	〃	—	クロルデン, 有機溶剤, ベルサイダー	ベルシコールパシフィックリミテッド東京支社	東京都港区六本木 6-3-18
〃	ゴールドクレスト40-VE	1105	20倍	水	クロルデン乳化剤, ベルサイダー, 有機溶剤	〃	
〃	ゴールドクレスト40-VO	1106	20倍	灯油	クロルデン, 有機溶剤, ベルサイダー	〃	
〃	井筒屋シロアリシャット乳剤A	1107	10倍	水	クロルデン, キンロール, ラウゾール, 乳化剤	井筒屋化学産業株式会社	熊本市花園町1-11-30
〃	井筒屋シロアリシャット油剤	1108	原液	—	クロルデン, ケロシン, ラウゾール	〃	

予防剤	オスモソート	1109	〃	—	クロルデン, 油性染料有機錫, 溶剤その他	(株)アンドリュウ商会		
〃	エバーウッド油剤CC-300	1110	〃	—	クロルデン, 有機溶剤, ナフテン酸銅他	神東塗料(株)		
〃	サンケイアリサンA	1111	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤, ベルサイダー, 有機溶剤	琉球産経(株)	
〃	サンケイアリサンW	1112	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤, ベルサイダー有機剤	〃	
〃	ブチノックス-KD	1113	原	液		デルドリン 8オキシドール銅	(株)コシイプ ザービング	
〃	アリゾールE4	1114	20	倍	水	ラウゾール アルドリン 乳化剤、溶剤	大日本木材 防腐(株)	
〃	Gori-22T	1115	原	液	—	クロルデン トリブチルスズオキサライド	大日本塗料(株)	大阪市此花区西九条 6-1-124
〃	ホームアンタ イザーW	1116	原	液	—	クロルデン ナフテレサン亜鉛	(株)協立有機工 業研究所	
〃	アリゾール	1117	原	液	—	クロルデン ラウゾール	大日本木材防 腐	
〃	ケミロックー OP	1118	原	液	—	クロルデン, 其他溶剤等, トリブプロモフェノール	児玉化学工業 (株)	
〃	ウッドガード	1119	〃	—		クロルデン, 有機スズ防腐 剤, 有機リン化合物, 炭化 水素	(株)日本衛生セ ンター	
〃	アリキラー油 剤	1120	原	液	—	クロルデン, トリブチル錫 フタレート, 有機溶剤	吉富製薬(株)	
〃	コシノックス -BC	1121	〃	—		クロルデン, 2, 4, 6トリ グロモフェノール	(株)コシイプ ザービング	
〃	キシラモン TBブラウン	1122	原	液	—	モノクロールナフタリン 2-イソプロポキシフェニル -N-メチルカーバメイト	武田薬品工業 (株)	大阪市東区道修町2-27
〃	キシラモン THクリヤー	1123	〃	—		同 上	〃	
〃	エバーウッド 乳剤C-100W	1124	10	倍	水	クロルデン, ジョードメチ ルP-トリルスルフォン	神東塗料(株)	
〃	シロアリ フマキラー 油剤110	1125	原	液	—	クロルデン トリブプロモフェノール	フマキラー(株)	
〃	タカラシロア リ油剤	1126	〃	—		クロルデン TBP	宝薬品工業(株)	中央区八重洲1-7-20
〃	ギノンシール	1127	〃	—		クロルデン, ケロシン ウオーターシール KY-C アセトン	三光薬品(株)	港区新橋5-26-8
〃	防蟻用 クレオソート	1128	〃	—		クロルデン クレオソート油	泉商事(株)	
駆除剤	アリノン	2004	原	液	—	ペンタクロロフェニールラ ウレート, クロルデン	山宗化学(株)	
〃	ウッドキーパ ー	2005	原	液	—	PCP, DDT, $\gamma$ -BHC オルトジクロロベンゼン, パラフィン, クレオソート 油	(株)日本白蟻研 究所	
〃	ウッドリン	2006	10	倍	水	ディルドリン, ジニトロオ ルトクレゾール, パラニト ロフェノール	日本マレニッ ト(株)	
〃	三共アリコロ シ	2007	10	倍	水	クロルデン, クロロオルト フェニールフェノール, P CP, テトラクロロフェノ ール, パラジクロロベンゼ ン, クレオソート油	三共(株)	
〃	メルドリン	2009	20	倍	水	ディルドリン, 乳化剤, 溶 剤	日本マレニッ ト(株)	
〃	アントキラー	2013	原	液	—	PCP, $\gamma$ -BHC, クロー ルナフタレン, パラジクロ ロベンゼン	富士白蟻研究 所	
〃	ターマイトン	2015	原	液	—	クロルデン, ビストリブチ ル錫オキサライド	前田白蟻研究 所	



駆除剤	アリス	2016	原	液	—	クロルデン, $\gamma$ -BHC, ビストリブチル錫オキシド	東洋木材防腐 ㈱	
〃	アリゼット	2020	原	液	—	ディルドリン, ペンタクロ ルフェノール	協和化学㈱	鯖江市神中町2-3-36
〃	コロナ	2021	10	倍	水	リンデン, エンドリン, デ ィルドリン, フェニトロチ オン (スミチオン), ディク ロールギス, トリクロルエ チレン	みくに化学㈱	東京都台東区東上野 3-36-8
〃	ケミドリン	2023	原	液	—	アルドリン, ディルドリン, 有機錫化合物, ペンタクロ ロフェノール	児玉化学工業 ㈱	
〃	アリサニタ	2025	原	液	—	有機物, ディルドリン, リ ンデン	日本油脂㈱	
〃	アリキラーヤ マト	2026	10	倍	水	リンデン, ディルドリン, アルドリン, PCP	東都防疫本社	
〃	ウッドリン O	2031	原	液	—	ディルドリン, 4.6ジニト ロオルトクレゾール, パラ ニトロフェノール, ペンタ クロルフェノール	日本マレニッ ト㈱	
〃	ブチノックス	2032	原	液	—	ディルドリン, ビストリブ チル錫オキシド	㈱コシイプレ ザービング	
〃	ネオアリス	2034	原	液	—	モノジトリクロルナフタレ ン混合物, $\gamma$ -BHC, トリ ブチル錫オキシド, メチ ルナフタレン	東洋木材防腐 ㈱	
〃	ウッドエッ スB	2035	原	液	—	クロルナフタリン, クロル デン, モノクロロオルソフ ェニルフェノール	日本カーリッ ト㈱	
〃	アンタイザ ーW	2037	原	液	—	ディルドリン, ナフテン酸 銅	㈱協立有機工 業研究所	
〃	アンタイザ ーD	2038	10	倍	水	ディルドリン, ペンタクロ ルフェノール	〃	
〃	アリキラー ーク	2039	原	液	—	トリブチル錫オキシド	吉富製薬㈱	
〃	アリキラー ク リヤー	2040	原	液	—	トリブチル錫オキシド, クロルデン	〃	
〃	サンプレザ ーS	2041	原	液	—	サリチルアニライド, チオ フォスフェイト, ジェチル トリアミド	山陽木材防腐 ㈱	
〃	アリゾール	2043	原	液	—	アビエチルアミン・ペンタ クロルフェネート, アルド リン, キシロール	大日本木材防 腐㈱	
〃	ケミガード ーO	2044	原	液	—	クロルナフタリン, 有機錫 化合物, ナフテン酸金属塩	児玉化学工業 ㈱	
〃	アリゾールE	2045	10	倍	水	アビエチルアミン・ペンタ クロルフェノール, クロル ナフタリン (軟化点95°C) アルドリン, キシロール	大日本木材防 腐㈱	
〃	ドルドップ	2046	原	液	—	クロルデン, ビス (トリブ チル錫) オキシド	日本農薬㈱	
〃	特製ドルト ップ	2047	原	液	—	クロルデン, クロルフェニ ルフェノール	〃	
〃	ケミロッカー ーO	2048	原	液	—	クロルデン, クロルナフタ リン	児玉化学工業 ㈱	
〃	エバーウッド 油剤C300	2049	原	液	—	クロルデン, 有機錫系防腐 剤	神東塗料㈱	
〃	シエルドライ ト	2050	20—40倍	水		ディルドリン, キレシン	シエル化学㈱	東京都千代田区霞ヶ関 3-2-5
〃	アンタイザ ーLP	2051	2	倍	水	クレオソート油, トリクロ ルナフタリン, モノクロル オルソフェニルフェノール	㈱協立有機工 業研究所	
〃	アントム乳剤	2052	20	倍	水	クロルデン, DDVP	丸和化学㈱	
〃	ケミロック	2053	10	倍	水	クロルデン, ナフテン酸金 属塩, 有機錫化合物	児玉化学工業 ㈱	
〃	メルドリン20	2054	40	倍	水	ディルドリン	日本マレニッ ト㈱	

駆除剤	ウッドリン20	2055	40	倍	水	ディルドリン, 4.6-ジニトロ-O-クレゾール, トリブチルスズオキシサイト	日本マレニット(株)	
//	サンプルザーO	2056	原	液	-	クロルデン, ペンタクロロフェノールラウレート, フェニトロチオン	山陽木材防(株)	
//	サンプルザーW	2057	20	倍	水	クロルデン, TBT-Oフェトロチオン	//	
//	ブチノックスK-8	2058	原	液	-	クロルデン, 8-オキシキノール銅	(株)コシイプレザービング	
//	エバーウッドCB-300	2061	原	液	-	クロルデン, ナフテン酸亜鉛	神東塗料(株)	
//	パラギタンーO	2062	原	液	-	Na-PCP, ディルドリン	三共消毒商事(株)	
//	ポリイワニット乳剤	2063	20	倍	水	ディルドリン C <sub>12</sub> H <sub>18</sub> Cl <sub>6</sub> O デイクスゾール201	岩崎産業(株)	
//	アリハツケンO	2065	原	液	-	クロルデン, ビス(トリ-N-ブチルスズオキシド, ケロシン	大阪化成(株)	
//	アリキラー乳剤	2066	30	倍	水	クロルデン, キシレン	吉富製薬(株)	
//	アリコロリン油剤	2067	原	液	-	アルドリン, ケロシン	(株)リスロン	
//	ポリイワニット油剤	2068	原	液	-	クロルデン, 錫化合物(ビストリブチルスズオキシド)	岩崎産業(株)	
//	デイクトラン油剤2	2069	原	液	-	1.2.4.5.6.7. 88-オクタクロル-3a4.7-7aテトラヒドロ-4.7-メタノインデン, ビストリブチルチンオキシド	大日本インキ化学工業(株)	
//	アントムゴールド	2070	原	液	-	クロルデン, 1F-1000	丸和化学(株)	
//	アリノック油剤	2071	原	液	-	クロルデン, PCP	東洋化学薬品(株)	
//	アリコロパーK	2072	原	液	-	クロルデン, ビスオキシド	有恒薬品工業(株)	
//	アリコロパーM	2073	20	倍	水	クロルデン, 灯油, 乳化剤	//	
//	ニッサンアリスナタP	2074	原	液	-	クロルデン, ラウゾール(ペンタクロロフェニルラウレート)	日本油脂(株)	
//	アリメツS	2075	20	倍	水	クロルデン, 脱臭ケロシン	第一消毒(株)	国分寺市本多3-10-15
//	トリデンTC-80	2076	原	液	-	クロルデン, トリブチルチンオキシド	松栄化学工業(株)	
//	アリハツケン40	2077	20	倍	水	クロルデン, ケロシン, 乳化剤	大阪化成(株)	
//	アリコロリン2号	2078	原	液	-	PCPラウレート, クロルデン, ケロシン	(株)リスロン	
//	ドルサイド	2079	原	液	-	クロルデン, ビス(トリブチル錫)オキシド, モノクロオルトフェニルフェノール	日本農薬(株)	
//	アリダウン油剤	2080	原	液	-	クロルデン, 有機亜鉛化合物, ナフテン酸亜鉛	松下電工(株)四日市工場	
//	サトコート油剤	2081	原	液	-	クロルデン, プレミアムスミチオン	イサム塗料(株)	
//	アリコロリン油剤	2082	原	液	-	クロルデン, 有機錫系防腐剤	尼崎油化(株)	
//	ウッドクリーンO	2083	原	液	-	クロルデン, トリブチルスズオキシド, テトラクロロイソフタロニトリル, テトラクロロエチルチオテトラヒドロフタルイミド	日本マレニット(株)	

駆除剤	ウッドクリーン	2084	20	倍	水	クロルデン	日本マレニッ ト(株)	
〃	エバーウッド 油剤CX-300	2085	原	液	—	クロルデン, N-ニトロソ ーシクロヘキシルヒドロキシ ルアミンA <sub>2</sub> 塩	神東塗料(株)	
〃	アリダウン油 剤A	2087	原	液	—	クロルデン, N-ニトロソ ーシクロヘキシルヒドロキシ ルアミンA <sub>2</sub> 塩	松下電工(株)四 日市工場	
〃	アリホート油 剤	2088	原	液	—	クロルデン, 1F100	鵬図商事(株)	
〃	アリガード油 剤	2089	原	液	—	クロルデン, PCPラウレ ート	明治薬品工業 (株)	
〃	アリガード乳 剤	2090	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤KH13	〃	
〃	ネオアリガー ド乳剤	2091	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤KH13	〃	
〃	リクトールO	2092	原	液	—	クロルデン, トリブチルス ズオキシサイド	ケミホルツ(株)	
〃	フマキラー アリデス油剤	2093	原	液	—	クロルデン, ナフテン酸亜 鉛	フマキラー(株)	
〃	フマキラーア リデス40乳剤	2094	10	倍	水	クロルデン, 界面活性剤	〃	
〃	ブチノックス —TC	2095	原	液	—	クロルデンTBTO	(株)コシイブレ ザービング	
〃	パルトンEN	2096	15	倍	水	クロルデン, 二臭化エチレ ン	(株)アンドリュ ウス商会	
〃	アリハッケン 80	2097	40	倍	水	クロルデン, ケロシン	大阪化成(株)	
〃	テルメスGO	2098	原	液	—	クロルデン, ペンタクロロ フェニールラウレート	イカリ消毒(株)	
〃	アリアンチ	2099	原	液	—	クロルデン, クロルナフタ リン, キシランザン—BD	三共(株)	
〃	ディクトラン 油剤2—N	2100	原	液	—	クロルデン, ラウレート, ナフテン酸亜鉛	大日本インキ 化学工業(株)	
〃	ポリイワニッ ト30	2101	30	倍	水	クロルデン, 有機溶剤, 液 化剤	岩崎産業(株)	
〃	アリホートベ ル乳剤	2102	原	液	—	クロルデン, ベルサイダー 灯油	明治薬品工業 (株)	
〃	サンケイアリ サンO	2103	原	液	—	クロルデン, ベルサイダー 有機溶剤	琉球産経(株)	
〃	ギノン乳剤20 A	2104	20	倍	水	ケロシン, キシロール, デ ルドリン, トキサノン, ノ ンポール	三光薬品(株)	神戸市生田区下山手通 5-16
〃	タイクロン油 剤	2105	原	液	—	クロルデン, ケロシン, ベ ルサイダー	三丸製薬合資 会社	
〃	ゴールドクレ スト 2—VO	2106	〃	〃	—	クロルデン, 有機溶剤, ベ ルサイダー	ベルシコール パシフィック リミテッド東 京支社	
〃	ゴールドクレ スト 40—VE	2107	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤, ベル サイダー, 有機溶剤	〃	
〃	ゴークドクレ スト 40—VO	2108	20	倍	灯油	クロルデン, 有機溶剤, ベ ルサイダー	〃	
〃	井筒屋 シロアリシヤ ット乳剤A	2109	10	倍	水	クロルデン, キシロール, ラウゾール, 乳化剤	井筒屋化学産 業(株)	
〃	エバーウッド 油剤CC-300	2110	原	液	—	クロルデン, 有機溶剤, ナ フテン酸銅	神東塗料(株)	
〃	サンケイ アリサンA	2111	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤, ベル サイダー, 有機溶剤	琉球産経(株)	
〃	サンケイ アリサンW	2112	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤, ベル サイダー, 有機溶剤	〃	
〃	アンタイザー E—2	2113	40	倍	水	デイルドリン溶剤, 界面活 性剤	(株)協立有機工 業研究所	
〃	ブチノックス —KD	2114	原	液	—	デルドリン 8オキシノール銅	(株)コシイブレ ザービング	



駆除剤	アリゾール E 4	2115	20	倍	水	ラウゾール アルドリ	大日本木材 防腐(株)
//	Gori-22 T	2116	原	液	—	クロルデン, トリブチルス ズオキサイド	大日本塗料(株)
//	ホームアン タイザー	2117	原	液	—	クロルデン, ナフテン酸亜 鉛, 溶剤, 香料	協立有機工 業研究所
//	アリゾール	2118	原	液	—	クロルデン, ラウゾール, 溶剤	大日本木材防 腐(株)
//	ケミロック H	2119	20		水	ヘプタクロール, 有機錫, ナフテン酸アエン金属	児玉化学工業 (株)
//	ウッドガード	2120	原	液	—	クロルデン, 有機スズ防腐 剤, 有機リン化合物, 炭化 水素系溶剤	日本衛生セ ンター
//	アリキラー油 剤	2121	//		—	クロルデン, ドリブチル錫 フタレート, 有機溶剤	吉富製薬(株)
//	コシノクス -BC	2122	//		—	クロルデン, 2, 4, 6トリ プロモフェノール	コシノプレ ザービング
//	キシラモン T Bプラン	2123	原	液		モノクロールナフタリン, 2-イソプロポキシフェニル -N-メチルカーバメイト	武田薬品工業 (株)
//	キシラモン T Hクリヤ	2124	//			同 上	//
//	エバーウッド 乳剤 C-100W	2125	10	倍	水	クロルデン, ジョードメチ ルP-トリリスフオン	神東塗料(株)
//	シロアリ フマキラー油 剤 I10	2126	原	液	—	クロルデン トリプロモフェノール	フマキラ(株)
//	タカラシロア リ油剤	2127	//		—	クロルデン TBP	宝薬品工業(株)
//	ギノンシール	2128	//		—	クロルデンKYC ウオーターシール ケロシン, アセトン	三光薬品(株)
土 壌 処 理 剤	アリデン末	3001	原	粉	—	クロルデン	三共(株)
//	アリデン	3002	20	倍	水	クロルデン	//
//	アリノン SM	3003	20	倍	水	クロルデン	山宗化学(株)
//	アリノンパウ ダー	3004	原	粉	—	クロルデン	//
//	クレオーゲン	3005	3	倍	水	クレオソート油, クロルデ ン, トリブチル錫オキサ イド, $\gamma$ -BHC	東洋木材防腐 (株)
//	メルドリン	3006	20	倍	水	ディルドリン, 乳化剤, 溶 剤	日本マレニッ ト(株)
//	メルドリン P	3007	原	粉	—	ディルドリン, 担体剤	//
//	アントキラー	3010	原	粉	—	ディルドリン, $\gamma$ -BHC	富士白蟻研究 所
//	ターマイトキ ラー 2号	3011	20	倍	水	クロルデン, 溶剤	東洋木材防腐 (株)
//	ターマイトン SD	3012	10	倍	水	ディルドリン, $\gamma$ -BHC	前田白蟻研究 所
//	アントキラー 乳剤	3013	30	倍	水	ディルドリン	富士白蟻研究 所
//	ソリュウム粉 剤	3015	原	粉	—	リンデン, アルドリ, タ ルク (粉末)	山島白蟻
//	ネオクリオー ゲン	3023	3	倍	水	ディルドリン, トリブチル 錫オキサイド	東洋木材防腐 (株)
//	アンタイザー E	3024	20	倍	水	ディルドリン, 溶剤	協立有機工 業研究所
//	アリゾール S	3025	25	倍	水	アビエチルアミン・ペンタ クロルフェノール, アルド リン, キシロール	大日本木材防 腐(株)
//	ウッドエース G	3026	20	倍	水	クロルデン, 溶剤, 乳化剤	日本カーリッ ト(株)

土壌処理剤	ニッサンアリ サニタE	3027	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	日本油脂(株)	
〃	ドルトップ乳 剤50	3028	30	倍	水	クロルデン, 乳化剤	日本農薬(株)	
〃	エバーウッド 乳剤C-100	3029	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤	神東塗料(株)	
〃	エバーウッド 乳剤-C200	3030	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	〃	
〃	シエルドライ ト	3031	20—40	倍	水	ディルドリン, キシレン	シュル化学(株)	
〃	ケミロック GL	3032	40倍以内		水	クロルデン, 溶剤	児玉化学工業 (株)	
〃	アリノック乳 剤	3033	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤	東洋化学薬品 (株)	
〃	メルドリン20	3034	40	倍	水	ディルドリン, 乳化剤	日本マレニッ ト(株)	
〃	サンソイル W	3035	30	倍	水	クロルデン, 乳化剤	山陽木材防腐 (株)	
〃	バラギタン W	3036	30	倍	水	ディルドリン, 乳化剤	三共消毒商事 (株)	
〃	ポリワイニッ ト乳剤	3037	20	倍	水	ディルドリン C <sub>12</sub> H <sub>8</sub> C <sub>6</sub> O 乳化剤	岩崎産業(株)	
〃	アリハツケン 20	3038	10	倍	水	クロルデン, ケロシン, 乳 化剤	大阪化成(株)	
〃	アリハツケン 40	3039	20	倍	水	クロルデン, ケロシン, 乳 化剤	〃	
〃	アリキラー乳 剤	3040	30	倍	水	クロルデン, キシレン, 乳 化剤	吉富製薬(株)	
〃	アリコロリン 乳剤	3041	10	倍	水	アルドリン, 芳香族溶剤, ミネラルスピリット	(株)リスロン	
〃	アリサンC	3042	36	倍	水	クロルデン, 乳化剤	琉球産経(株)	
〃	コシクロー ル	3043	30	倍	水	クロルデン, 乳化剤	(株)コシイプ レザービング	
〃	テイクトラン 乳剤	3044	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	大日本インキ 化学工業(株)	
〃	アリコロパ ーM	3045	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	有恒薬品工業 (株)	
〃	トリデンG -85	3046	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	松栄化学工業 (株)	
〃	アリコロリン 乳剤2号	3047	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤	(株)リスロン	
〃	アリダウン乳 剤	3048	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	松下電工(株)四 日市工場	
〃	サトコール乳 剤	3049	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	イサム塗料(株)	
〃	アリコロリン 乳剤	3050	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤	尼崎油化(株)	
〃	ウッドクリー ン	3051	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	日本マレニッ ト(株)	
〃	エバーウッド 乳剤C-500	3052	37.5	倍	水	クロルデン, 乳化剤	神東塗料(株)	
〃	ウッドキング A	3053	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	サンケイ化学 (株)	鹿児島市郡元町880
〃	エバーウッド C末	3054	原	粉	—	クロルデン, 鈹物粉末, 撥 水剤	神東塗料(株)	
〃	アリホート乳 剤	3055	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	鷗園商事(株)	
〃	ネオアリガー ド乳剤	3056	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	明治薬品工業 (株)	
〃	リクトールT M	3057	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤	ケミホルツ(株)	
〃	テルメスサン ド	3058	原	末	—	クロルデン, 鈹物粉末, 撥 水剤	イカリ消毒(株)	
〃	エーデン-W	3059	10	倍	水	クロルデン, 界面活性剤, 溶剤	東洋木材防腐 (株)	

土壌 処理剤	フマキラー アリデス	3060	10	倍	水	クロルデン, 界面活性剤他	フマキラー(株)	
〃	ドルサイド乳 剤	3061	25	倍	水	クロルデン, BPMC, 乳 化剤	日本農業(株)	
〃	コシクロール -D	3062	40	倍	水	デルドリン, 乳化剤他	(株)コシイブレ -ザービング	
〃	テルメス-E	3063	20	倍	水	クロルデン, 乳化剤, 炭化 水素系溶剤	イカリ消毒(株)	
〃	アリハッケン 80	3064	40	倍	水	クロルデン, ケロシン, 乳 化剤	大阪化成(株)	
〃	ホーム アンタイザー	3065	25	倍	水	クロルデン, 溶剤, 界面活 性剤	(株)協立有機工 業研究所	
〃	ドルガートG 12粒剤	3066	原	粒	-	クロルデン, 有機溶媒等, 乳化剤, 増養剤	日本農業(株)	
〃	ポリイワニッ ト30	3067	30	倍	水	クロルデン, 液化剤, 有機 溶剤	岩崎産業(株)	
〃	アントムF	3068	20	倍	水	クロルデン, 溶剤, 乳化剤	丸和化学(株)	
〃	ギノン乳剤20 A	3069	20	倍	水	ケロシン, キシロール, デ ルドリン, トキサノン, ノ ニポール	三光薬品(株)	
〃	ダイクロン乳 剤40	3070	20	倍	水	クロルデン, ケロシン, 乳 化剤VT207	三丸製薬合資 会社	
〃	ダイクロン乳 剤20	3071	10	倍	水	クロルデン, ケロシン, 乳 化剤VT207	〃	
〃	井筒屋 シロアリシャ ット乳剤B	3072	10	倍	水	クロルデン, 乳化剤, キン レン	井筒屋化学産 業(株)	
〃	アリホート乳 剤	3073	37.5	倍	水	クロルデン溶剤, 乳化剤	明治薬品工業 (株)	
〃	オスモソール 40	3074	40	倍	水	クロルデン, 展着剤, 溶剤, 乳化剤	(株)アンドリュ -ウス商会	
〃	アンタイザー E-2	3075	40	倍	水	ディルドリン溶剤, 界面活 性剤	(株)協立有機工 業研究所	
〃	Gori-22-W I	3076	25	倍	水	クロルデン, 乳化剤, 高沸 点溶剤	大日本塗料(株)	
〃	ケミロック- DH	3077	20		水	ヘプタクロール, その他溶 剤	児玉化学工業 (株)	
〃	ウッドガード -E	3078	20		水	クロルデン, 乳化剤, 炭化 水素系溶剤	(株)日本衛生セ ンター	
〃	キルビ	3079	40	倍	水	ヘキサクロルヘキサヒドロ ジノナフタリン, ヘキサク ロルシクロヘキサン	武田薬品工業 (株)	
〃	タカラシロア リ乳剤	3080	20	倍	水	クロルデン, 安定剤 有機溶剤	宝薬品工業(株)	
燻蒸剤	エキボン	4001	原	液	-	酸化エチレン, 臭化メチル	液化炭酸(株)	東京都北区志茂5-20-8



しろあり防蟻材料認定商品名一覧表

(昭和53. 10. 31現在)

認定 番号	商 品 名	注 入 薬 剤	製 造 元		電 話
			名 称	所 在 地	
第1号	グリーンウッド	トヨゾールおよび ポリデンソルト	東洋木材防腐株式会社	大阪市南区末吉橋通 4-26	06(282) 0900
第2号	PGスケヤーおよ びPGアピトン	ペンタグリーン	山陽木材防腐株式会社	東京都千代田区丸の内 2-3-2 郵船ビル410号	03(284) 0501
第3号	サンインPGスケ ヤー	ペンタグリーン	山陰木材防腐株式会社	東京都千代田区有楽町 1-10-1	03(212) 7888
第4号	ポリデンウッド	ポリデンソルト	㈱コシイプレザービング	大阪市住之江区御崎 4-11-15	06(685) 8737
第5号	富士土台	ポリデンソルト	清水港木材防腐協同組合	清水市富士見町2-5	0543(53) 3231
第6号	デンソー	ポリデンソルトK -33	シュリロ貿易株式会社	東京都港区新橋米田ビル 6-17-20	03(433) 4251
第7号	ロックウッド	ネオイワニッド	岩崎産業株式会社	鹿児島市東開町7	0992(69) 3369